

# 1 . 調査の目的と背景

## ( 1 ) レッドデータブックの役割と国の対応

野生生物を人為的に絶滅させないためには、絶滅のおそれのある種を的確に把握し、一般への理解を広める必要がある。

レッドデータブックとは、野生生物の種を絶滅のおそれのある程度（カテゴリー）に応じてランク付けをし、その生息・生育状況などについて解説した資料集であり、国際的には 1966 年（昭和 41 年）に国際自然保護連合（IUCN）から初めて発行された。

我が国では、植物について平成元年に、（財）世界自然保護基金日本委員会と（財）日本自然保護協会の共同編集により「我が国における保護上重要な植物種の現状」が発行されたのが最初である。

環境省は、「我が国の絶滅のおそれのある野生生物」として、平成 3 年度に動物編を発行したが、生息状況や生息環境の変化に関する最新の知見・情報等を踏まえ、また、1994 年（平成 6 年）に IUCN で採択された新しいカテゴリーの考え方にに基づき、レッドデータブックの見直しを行う必要が生じた。

このため、環境省は平成 7 年度から、哺乳類、鳥類といった分類群ごとに専門家による検討会を設け改訂作業に着手し、平成 12 年 2 月の「爬虫類・両生類」から、順次改訂版レッドデータブックとしてとりまとめ、発行してきた。

また、平成 14 年度より、生息状況や生息環境の変化等最新の知見に基づいて検討を行い、平成 18 年 12 月には、鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物の 4 分類群について、平成 19 年 8 月には、残りの哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物 I 及び植物 II の 6 分類群について、新たなレッドリストを公表した。

レッドデータブックは、生物学的観点から個々の種の絶滅の危険度を評価し選定したものであり、規制等の法律上の効果を持つものではないが、絶滅のおそれのある野生生物の保護を進めていくための基礎的な資料として広く普及を図り、野生生物への関心を高めるとともに、各種開発事業の環境影響評価などに活用され、自然環境保全への配慮が促進されることを目的としている。

また、レッドデータブックの掲載種の中でも特に保護の優先度の高い種については、さらに調査を進めた上で必要に応じ、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」に基づく国内希少野生動植物種に指定し保護を図っていくこととしている。

環境省における改訂作業により、絶滅のおそれのある生物の種数は、今回のリスト改訂で動物では 1,002 に、植物では 2,153 となっており、絶滅のおそれがある生物の種数が増加している。

この理由としては、生息・生育環境の悪化などが大きいと考えられるものの、分類学上の整理が進んだり知見が充実したりしたことにより評価対象種数自体が増加したことも事実であることから、今後とも 5～10 年ごとに見直し作業を行い、最新の知見により改訂していくことが必要とされている。

## (2) 愛知県版レッドデータブックの意義

野生生物は、各地域の自然環境特性に適応して生育していることから、これらの野生生物を的確に保全し生物多様性の確保を図るためには、全国的な情報と併せ、県等の行政区画単位で地域特性ごとに情報整理を行う必要がある。

環境省作成のレッドデータブック（レッドリスト）は、全国の生息・生育状況を基準として「絶滅のおそれの程度」を評価している。しかし、全国的には当面絶滅のおそれがない生物でも愛知県に限れば絶滅する危険性が極めて高いものもあり、全国の平均的な状況では絶滅の可能性がある生物でも愛知県に限ればまだ比較的多く残存しているものもある。

例えば、「ヤチヤナギ」は、北半球の周極地方に広く分布しており、日本でも北海道や本州北部の泥炭湿地には比較的多く生育しており、やや離れて尾瀬にも分布している。また、尾瀬よりはるか南の愛知県と三重県の低地にも数カ所、自生地がある。しかし、これらの場所の個体群は、いずれもすでに絶滅したか、残存していても極めて危機的な状況にある。愛知県や三重県の低地に生育するヤチヤナギは、現在よりはるかに寒冷だった時代に分布を拡大してきて今日まで残存しているもので、地球の気候変動を物語る証人として保全上重要な価値がある。しかし、ヤチヤナギは、北海道や尾瀬では個体群が安定的に維持されており絶滅のおそれはないと判断されるため、日本全体で評価を行う環境省作成のレッドデータブックには掲載されていない。一方、サクラバハシノキやヒメコヌカグサは、湧水環境の多い愛知県の丘陵地には比較的多く生育しており、さしあたり絶滅のおそれはないと判断される。しかし、これらの植物は、全国的には減少傾向が著しく、環境省作成のレッドデータブックに掲載されている。地域の特性に応じて効率的に生物多様性を保全するためには、どうしても地域版のレッドデータブックが必要である。

また、環境省のレッドデータブックでは、日本が島国であり地理的にある程度孤立していることもあって、再侵入確率は考慮しないという方針で評価が行われている。しかし、隣接地と地続きの愛知県のような地域を対象とする場合には、再侵入確率は無視できない問題である。

例えば、愛知県には僅かしか存在しないが長野県や岐阜県にはたくさんある種は、現在愛知県にある個体群が絶滅しても、そのうちに隣接地から再度種子が運ばれ、発芽して生長する可能性がある。そうなれば、愛知県全体としては絶滅したことにならない。それに対して、シデコブシやシラタマホシクサのような愛知県を中心とした地域にしか生育していない地域固有種は、愛知県内で絶滅すれば他地域から分布を拡大してくることはほとんど期待できない。県内に現存する個体群の絶滅危険度が仮に同じであったとしても、長期的に愛知県内でその種が存続する可能性は大きく異なってくる。そのため本県の選定基準では、生育環境の減少率や、開発や採取などの人為的圧力による種の絶滅の危険性に加えて、その種の「地域固有性」を考慮して評価を行った。

以上のとおり愛知県版レッドデータブックは、地域的情実が異なる中での野生生物のきめ細かい生息状況を把握し、その情報を広く県民へ周知し本県固有の自然環境保全への配慮を促す等の役割を担うものである。

愛知県版レッドデータブックは平成 13 年度にとりまとめを行ったが、その後、全国的に野生生物種の減少や生態系への影響が指摘されていること、野生生物の生息・生育環境に影響を及ぼす土地の改変などの様々な状況が変化していることなどから、平成 18 年度から、専門家で構成する「愛知県希少野生動植物リスト検討会」を中心に、県民からも意見を求め、現地調査を行うなど見直し作業を進め、さらに平成 20 年度には専門家による「第二次レッドデータブックあいち検討会」において内容の検討を行い、「レッドデータブックあいち 2009 植物編」としてとりまとめた。

## 2 . 調査の概要

### ( 1 ) 調査対象

#### 調査対象

- ・維管束植物（種子植物・シダ植物）

平成 13 年発行の「レッドデータブックあいち植物編」（以下、「レッドデータブックあいち 2001 植物編」という。）に掲載された 584 種（亜種、変種を含む）に加えて、その後、愛知県に生育することが確認されたハマホラシノブ、ヒロハノコギリシダ、シマシロヤマシダ、ヌカボシクリハラン、ミヤコミズ、ハチジョウイノコズチ、ゴハリノマツモ、テリハキンバイ、ハマナツメ、オオナンバンギセル、カニコウモリ、イソギク、ツクシメナモミ、オナモミ、ツツイトモ、ミズバショウ、ヒメアオガヤツリ、チャボイ、ツクシカンガレイ、タシロラン、アキザキヤツシロラン等、過去に採集された標本が確認できたオオナンバンギセル、カニコウモリ、ツクシカンガレイ、ムカゴソウ、前回は調査対象としなかったが、環境省の 2007 年版レッドリストに掲載されたオクタマシダ、ナガバノウナギツカミ、ノタヌキモ、ミズオオバコ、ツクシクロイヌノヒゲ、再検討してみると愛知県では絶滅が危惧される可能性があるヨツバハギ、ヒルムシロ、ナリヒラダケ、ヒメガヤツリ、分類学的な検討が進んだコミゾソバ、ヤマミゾソバ、オオミゾソバ、トヨボタニソバ、ヒメボントクタデ、ヒロハスズメノトウガラシ、ミカワトウヒレン、コフキイワギボウシ、ホザキマスキサ、オオミヤマウズラ（一部未発表のものを含む）を調査対象とした。品種のスハマソウとシロバナナガバノイシモチソウ、逸出種のカジノキとニッケイも、掲載種の解説に示したような理由により調査対象種に加えた。一方、品種の階級であることが判明したキイムヨウランは、調査の対象から除外した。

- ・コケ植物（蘚類・苔類）

蘚類及び苔類の種（亜種、変種を含む）を単位とし、標本あるいは文献等により、愛知県に生育している（いた）と判断された種を対象とした。なお、ツノゴケ類については、資料不足のため対象外とした。

#### 調査対象範囲

調査対象範囲は、愛知県内（島嶼部を含む）の陸上及び陸水中とした。また、沿岸の浅海域、干潟、河口部も含むものとした。

## (2) 調査体制

### 第二次レッドリスト作成

第二次レッドリスト作成（第一次レッドリストの見直し）に当たっては、平成18年度に野生動植物に関する専門の学識者を中心とした「愛知県希少野生動植物リスト検討会」を設置し、調査に関する事項として、調査の進め方、調査結果のデータベース化等を、レッドリスト作成に関する事項として、評価方法、評価結果等を検討した。

実際の調査及びレッドリスト作成に関する作業は、各分類群毎に実施し、検討会において調査・作業状況を報告するとともに、分類群間での連絡調整を行った。

検討会の体制及び委員は表1のとおりである。

表1 愛知県希少野生動植物リスト検討会（敬称略）

専門分野等	委員	任期
維管束植物	芹沢俊介（愛知教育大学教授）	H18.7～H20.3
〃	村松正雄（瀬戸市立水無瀬中学校教諭）	〃
蕨類	岩月善之助（財団法人服部植物研究所長）	〃
苔類	山田耕作（元神宮司庁嘱託）	〃
哺乳類	子安和弘（愛知学院大学講師）	H18.7～H20.3
〃	織田銃一（名古屋大学大学院生命農学研究科教授）	〃
鳥類	高橋伸夫（愛知県野鳥保護連絡協議会調査部長）	〃
両生類・は虫類	大竹 勝（犬山市環境審議会委員）	〃
淡水魚類	駒田格知（名古屋女子大学教授）	〃
昆虫類	佐藤正孝（名古屋女子大学名誉教授）（故人）	H18.7～H18.8
〃	間野隆裕（豊田市矢作川研究所総括研究員）	H18.7～H20.3
〃	田中 蕃（名城大学特任教授）（故人）	H18.9～H19.5
〃	安藤 尚（元愛知県自然環境審議会専門調査員）	H19.7～H20.3
クモ類	緒方清人（日本蜘蛛学会評議員）	H18.7～H20.3
〃	須賀瑛文（日本蜘蛛学会会員）	〃
貝類	木村昭一（日本貝類学会評議員）	〃
〃	原田一夫（元愛知県自然環境審議会専門調査員）	〃
天然記念物	石川 裕（愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室長）	H18.7～H19.3
〃	村上恵美子（愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室長）	H19.4～H20.3

### 「レッドデータブックあいち2009」作成

「レッドデータブックあいち2009 動物編」及び「レッドデータブックあいち2009 植物編」の作成に当たっては、平成20年度に野生動植物に関する専門の学識者を中心とした「第二次レッドデータブックあいち検討会」を設置し、レッドデータブック作成に関する事項として、必要な情報の収集・整理・記載内容・構成等を検討した。

実際のレッドデータブック作成に関する作業は、各分類群毎に実施し、検討会において作業状況を報告するとともに、分類群間での連絡調整を行った。

検討会の体制及び委員は表2のとおりである。

表2 第二次レッドデータブックあいち検討会（敬称略）

専門分野等	委員	任期
維管束植物	芹沢俊介（愛知教育大学教授）	H20.4～H21.3
〃	村松正雄（瀬戸市立水無瀬中学校教諭）	〃
蕨類	岩月善之助（財団法人服部植物研究所長）	〃
苔類	山田耕作（元神宮司庁嘱託）	〃
哺乳類	子安和弘（愛知学院大学講師）	H20.4～H21.3
〃	織田銃一（名古屋大学大学院生命農学研究科教授）	〃
鳥類	高橋伸夫（愛知県野鳥保護連絡協議会調査部長）	〃
両生類・は虫類	大竹 勝（犬山市環境審議会委員）	〃
淡水魚類	駒田格知（名古屋女子大学教授）	〃
昆虫類	間野隆裕（豊田市矢作川研究所総括研究員）	〃
〃	安藤 尚（元愛知県自然環境審議会専門調査員）	〃
クモ類	緒方清人（日本蜘蛛学会評議員）	〃
〃	須賀瑛文（日本蜘蛛学会会員）	〃
貝類	木村昭一（日本貝類学会評議員）	〃
天然記念物	村上恵美子（愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室長）	H20.4～H21.3

### 3. 調査内容

#### (1) 調査方法

調査は、平成18年度から平成20年度にかけて、各分類群毎に以下の方法により実施した。

#### 維管束植物（種子植物・シダ植物）

維管束植物の調査は、愛知県植物誌調査会が実施した。愛知県植物誌調査会では、1992年から蓄積している県内を58区画に分けての全維管束植物の分布資料を基礎に、必要に応じ追加野外調査や現状確認調査、国内主要標本室の収蔵標本調査を行い、現況および過去の状況を把握した。調査の単位とした58区画は、1992年当時の市町村界を基礎に、二次メッシュに相当するほぼ100k㎡を基準とし、200k㎡を超える市町村は行政界、地形界、大規模構造物などにより分割し、50k㎡以下の市町村は合併させるという基本方針で設定した。郡を越える合併は原則として避け、ある市町村を分割した区画の一つと他の市町村を合併させることも避けた。各区画の略称と範囲は、図1および表3に示した。平成の大合併によりこの原則から外れることになった「14蒲郡御津」と「54尾西祖父江」は、面積は狭くなるが、とりあえず2区画に分割した。

調査記録は、後日必要に応じ再検討できるよう、原則として裏付けとなる標本が公共標本室に保管されているものに限定した。標本の裏付けがない観察記録は、参考情報にとどめた。ただし、過去に県内で記録されているが現存が確認できず、標本も残されていない一部の種については、今まで愛知県では自然史資料の集積体制が十分でなかったという事情を考慮し、確実と思われるものに限定してリストに掲載した。



図1 調査区画図

表3 調査区画一覧

地域	番号	略称	範囲	
東 三 河	1	富山	豊根村 (旧富山村)	
	2	豊根	豊根村 (旧村域)	
	3	津具	設楽町 (旧津具村)	
	4	東栄	東栄町	
	6	設楽西部	設楽町 (旧町域の寒狭川・境川以西)	
	7	設楽東部	設楽町 (旧町域の寒狭川・境川以東)	
	8	鳳来北東部	新城市 (旧鳳来町の中央構造線以北、寒狭川・海老川以東)	
	9	鳳来南部	新城市 (旧鳳来町の中央構造線以南)	
	10	鳳来北西部	新城市 (旧鳳来町の寒狭川・海老川以西)	
	11	作手	新城市 (旧作手村)	
	12	新城	新城市 (旧市域)	
	13	豊川宝飯	豊川市 (旧御津町を除く)、小坂井町	
	14a	蒲郡	蒲郡市	
	14b	御津	豊川市 (旧御津町)	
	15	豊橋北部	豊橋市の東海道本線以北	
	16	豊橋南部	豊橋市の東海道本線以南	
	西 三 河	17	田原赤羽根	田原市 (旧田原町、旧赤羽根町)
		18	渥美	田原市 (旧渥美町)
5		稲武	豊田市 (旧稲武町)	
19		旭	豊田市 (旧旭町)	
20		足助	豊田市 (旧足助町)	
21		下山	豊田市 (旧下山村)	
22		小原	豊田市 (旧小原村)	
23		藤岡	豊田市 (旧藤岡町)	
24		豊田東部	豊田市 (旧市域の矢作川・御船川以東)	
25		豊田北西部	豊田市 (旧市域の矢作川・御船川以西、国道153号バイパス以北)	
26		豊田南西部	豊田市 (旧市域の矢作川・御船川以西、国道153号バイパス以南)	
27		三好	三好町	
28		額田	岡崎市 (旧額田町)	
29		岡崎北部	岡崎市 (旧市域の矢作川・乙川・男川以北)	
30		岡崎南部	岡崎市 (旧市域の矢作川・乙川・男川以南)	
尾 張		31	幸田	幸田町
		32	刈谷知立	刈谷市、知立市
		33	安城	安城市
	34	高浜碧南	高浜市、碧南市	
	35	西尾	西尾市	
	36	幡豆	幡豆郡	
	37	瀬戸尾張旭	瀬戸市、尾張旭市	
	38	日進長久手	長久手町、日進市	
	39	豊明東郷	東郷町、豊明市	
	40	大府東浦	大府市、東浦町	
	41	東海知多	東海市、知多市	
	42	半田武豊	阿久比町、半田市、武豊町	
	43	常滑	常滑市	
	44	知多南部	美浜町、南知多町	
	45	犬山	犬山市	
	46	江南丹羽	丹羽郡、江南市	
	47	小牧	小牧市	
	48	春日井	春日井市	
49	岩倉西春	岩倉市、豊山町、北名古屋市、春日町、清須市		
50	名古屋北部	名古屋市西区、北区、中区、東区、守山区、千種区、名東区		
51	名古屋南東部	名古屋市昭和区、瑞穂区、南区、天白区、緑区		
52	名古屋南西部	名古屋市中村区、熱田区、中川区、港区		
53	一宮木曾川	一宮市 (旧市域、旧木曾川町)		
54a	尾西	一宮市 (旧尾西市)		
54b	祖父江	稲沢市 (旧祖父江町)		
55	稲沢平和	稲沢市 (旧市域、旧平和町)		
56	海部東部	甚目寺町、大治町、美和町、七宝町		
57	海部西部	津島市、愛西市		
58	海部南部	弥富市、蟹江町、飛島村		

## コケ植物

調査対象種について、以下の 3 方法により生育状況の把握を行った。なお、調査結果の記録にあたっては、データベース化を考慮し、所定の調査票に記入する方式とした。

- ・文献調査

既存の文献を収集し、生育場所、確認時期等を調査した。

- ・標本調査

既存の標本に関する情報を収集し、生育場所、確認時期等を調査するとともに、必要に応じて未同定標本の同定を行った。

- ・現地調査

現地踏査を行い、生育状況を調査するとともに、必要に応じて文献調査及び標本調査で把握した既知産地の現状についても調査した。

## (2) 評価の区分及び方法

各調査対象種の絶滅のおそれの程度について、調査結果をもとに表 4 に示す評価区分基準に従い判定し、レッドデータブック掲載種の選定及び評価を行った。

維管束植物は、調査対象種について、愛知県内に現存する「個体数」と「集団数」を集計するとともに、「生育環境の減少傾向」、「人為的圧力の程度」、「地域固有性」を加えた 5 項目について、それぞれ表 5 に示す 4 段階で評価し、その総点をその種の評価点とし、総点 16 以上を絶滅危惧 I A 類 (CR)、14~15 を絶滅危惧 I B 類 (EN)、12~13 を絶滅危惧 II 類 (VU)、11 を準絶滅危惧 (NT)、10 以下をリスト外と判定した。ただし一部の特殊事情があると判断される種については、総点に 1 を加え、または総点から 1 を減じて、評価を行った。手法の根拠及び詳細は、資料編に示した。また、環境省が平成 19 年 8 月に公表した全国版レッドリスト掲載種のうち、愛知県のリスト外と判定された種は、参考のため「国リスト」として掲載した。

コケ植物については、維管束植物と同程度の定量的な評価は困難であったため、収集された情報をもとに、全国的な分布の状況等を勘案して総合的に判断・評価を行い、定性的要件に従い絶滅のおそれの程度を判定した。手法の詳細は、資料編に示した。

なお、評価区分のうち野生絶滅は、原産地や遺伝的混乱の防止体制に疑問があると思われる場合もあり、また個人的に管理されているものをすべて確認することも困難であると判断されたので、今回のレッドデータブックでは絶滅とあわせ、絶滅・野生絶滅として扱うこととした（ただし、表記上は絶滅 (EX) とした）。

判定の結果は、「レッドデータブックあいち 2009 植物編」の基礎となる第二次レッドリスト（植物編）（案）としてとりまとめた。また、レッドリストの精度の充実を図るため、平成 19 年 11 月に情報及び意見（パブリックコメント）の収集を行った。これらを勘案し、第二次レッドリスト（植物編）としてとりまとめ、平成 20 年 3 月に公表した。更に平成 20 年 10 月末日までの現地調査結果を加えて最終的な判定を行い、最新のレッドリストとして本書に掲載した。なお、パブリックコメントのうち本書の記述に反映できなかった意見の主要なものは、資料編 Q&A に収録した。

表4 「レッドデータブックあいち2009植物編」の評価区分基準

区分及び基本概念		定性的要件		定量的要件
絶滅 Extinct (EX) ・ 野生絶滅 Extinct in the Wild (EW)	愛知県ではすでに絶滅したと考えられる種。 野生では絶滅し、飼育・栽培下でのみ存続している種。	過去に愛知県に生息したことが確認されており、愛知県において少なくとも野生ではすでに絶滅したと考えられる種（飼育・栽培下では存続している種を含む）。 【確実な情報があるもの】 1 今回の調査や記録により、すでに野生で絶滅したことが確認された。 【情報量が少ないもの】 2 過去20年間前後の間に、信頼できる生息の情報が得られていない。		—
絶滅危惧 I 類 Critically Endangered + Endangered (CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種。 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。	絶滅危惧 I A 類 (CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。	表5の評価点の合計が16以上
		絶滅危惧 I B 類 (EN)	I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。	
絶滅危惧 II 類 Vulnerable (VU)	絶滅の危険が増大している種。 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。	次のいずれかに該当する種 【確実な情報があるもの】 1 大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。 2 大部分の生息地で生息条件が明らかに悪化しつつある。 3 大部分の個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 4 分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している。		表5の評価点の合計が12～13
準絶滅危惧 Near Threatened (NT)	存続基盤が脆弱な種。 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。	次に該当する種。 生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。具体的には、分布域の一部において、次のいずれかの傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。 1 個体数が減少している。 2 生息条件が悪化している。 3 過度の捕獲・採取圧による圧迫を受けている。 4 交雑可能な別種が侵入している。		表5の評価点の合計が11
国リスト	環境省レッドリスト（2007年版）に記載されているが、愛知県において上記の要件に該当しない種（維管束植物）。			表5の評価点の合計が10以下

注：2001年発行の「レッドデータブックあいち2001植物編」における評価区分の「リスト外」について、本書では「国リスト」とした。

表5 各評価項目の評価基準（維管束植物）

評価項目	評価点	4	3	2	1
個体数		10 未満	100 未満	1,000 未満	1,000 以上
集団数		1～2	3～5	6～15	16 以上
生育環境の減少傾向		著しく減少	やや減少	増減なし	増加
人為的圧力（開発圧・採取圧）の程度		極めて強い	強い	あり	なし
地域固有性		強い	やや強い	弱い	なし

## 4. 調査結果

### (1) 概要

「レッドデータブックあいち 2009 植物編」に掲載された種（亜種・変種を含む）の数は、表 6 のとおり。

絶滅のおそれのある種（絶滅危惧 類及び 類）の数は 480 であり、その内訳は、維管束植物（種子植物・シダ植物）が 421、コケ植物（蘚類・苔類）が 59 となっている。また、現時点での絶滅危険度は小さいものの、生育条件の変化によっては「絶滅危惧」種に移行する要素を有する種（準絶滅危惧）は、維管束植物が 124、コケ植物が 6 となっている。さらに、県内ですでに絶滅した種は、維管束植物が 42、コケ植物が 3 となっている。

なお、環境省が平成 19 年に発行した全国版レッドリスト（維管束植物、維管束植物以外）掲載種のうち、本県での生育状況からは絶滅危険度が小さいなどとして愛知県版レッドデータブックのリスト外と判定された種は 25（全て維管束植物）である。

「レッドデータブックあいち 2001 植物編」掲載種と比較すると、絶滅のおそれのある種（絶滅危惧 類及び 類）の数は 35 増加し、その内訳は、維管束植物が 15、コケ植物（蘚類、苔類）が 20 となっている。また、県内では既に絶滅した種は 6 増加（いずれも維管束植物）した。

表 6 「レッドデータブックあいち 2009 植物編」掲載種数

評価区分 対象	絶滅 (EX)	絶滅のおそれのある種				準絶滅 危惧 (NT)	計	国リスト 1	県内 確認 種数 2
		絶滅 危惧 A 類 (CR)	絶滅 危惧 B 類 (EN)	絶滅 危惧 類 (VU)	小計				
維管束植物（小計）	42 (36)	58 (55)	163 (150)	200 (201)	421 (406)	124 (119)	587 (561)	25 (23)	約 2,220 (約 2,200)
シダ植物	2 (3)	3 (1)	21 (15)	25 (28)	49 (44)	15 (15)	66 (62)	0 (0)	約 270 (約 270)
裸子植物	0 (0)	0 (0)	2 (2)	3 (4)	5 (6)	3 (2)	8 (8)	0 (0)	約 20 (約 20)
被子植物 離弁花類	9 (6)	18 (17)	49 (48)	65 (65)	132 (130)	40 (40)	181 (176)	6 (5)	約 810 (約 800)
合弁花類	16 (13)	16 (18)	40 (35)	36 (35)	92 (88)	33 (31)	141 (132)	10 (12)	約 520 (約 520)
単子葉類	15 (14)	21 (19)	51 (50)	71 (69)	143 (138)	33 (31)	191 (183)	9 (6)	約 600 (約 590)
コケ植物（小計）	3 (3)	14 (12)	22 (19)	23 (8)	59 (39)	6 (21)	68 (63)	-	約 500 (約 450)
蘚類	0 (0)	13 (11)	18 (11)	18 (6)	49 (28)	5 (21)	54 (49)	-	約 350 (約 300)
苔類	3 (3)	1 (1)	4 (8)	5 (2)	10 (11)	1 (0)	14 (14)	-	153 (約 150)
計	45 (39)	72 (67)	185 (169)	223 (209)	480 (445)	130 (140)	655 (624)	25 (23)	約 2,720 (約 2,650)

注：表中（ ）内は、「レッドデータブックあいち 2001 植物編」及び「同普及版」の掲載種数を示した。

1：環境省レッドリスト（2007 年版）に記載されているが、愛知県において絶滅種、絶滅危惧種、準絶滅危惧種に該当しない種（維管束植物）、「レッドデータブックあいち 2001 植物編」の「リスト外」と同等であるが、ランク外、評価外とまぎらわしいため呼称を変更した。

2：品種・雑種を除き、亜種・変種を含む。また、移入の可能性が高い植物を除く。維管束植物について、10 以下の数は四捨五入した。

## (2) 維管束植物(種子植物・シダ植物)

### 愛知県における維管束植物の概況

愛知県に野生状態で生育する維管束植物(種子植物とシダ植物)は、まだ完全な植物目録が完成していないため正確な数を把握できないが、およそ表7の通りである。日本に本来自生する維管束植物は約7,000種(亜種・変種を含む)であるから、その約3割が愛知県に自生していることになる。

表7 愛知県の維管束植物<sup>※1</sup>

植物群		シダ植物	裸子植物	被子植物			計
				離弁花類	合弁花類	単子葉類	
在来	種 <sup>※2</sup>	270	20	810	520	600	2,220
	品種	20	+	130	110	50	310
	雑種	90	+	70	10	30	200
外来種 <sup>※3</sup>		+	10	280	190	140	620
計		380	30	1,290	830	820	3,350

※1: 10以下の数は四捨五入。+は0でないことを示す。

※2: 移入の可能性が高い植物を除き、亜種・変種を含む。移入種は外来種に含めてある。

※3: 帰化種のほか、国内移入、園芸植物起源で雑草化していないもの、多量に野外植栽されているもの等を含み、また正確な種名が未同定のものを含む。なお、外来種については最近の集計が行われておらず、この数字は2001年当時のものである。

この数は、隣接する静岡県や長野県には及ばないが、全国的に見ればそれほど少ない数ではない。愛知県の最高点は茶臼山の1,415mにすぎないが、それでも中部山岳地帯の南端に位置し、木曾山脈の中心部まで山続きである。天竜川の谷をはさんで、赤石山脈南部とも接している。そのため、かなりの温帯性植物や東日本系の植物が、愛知県まで辛うじて到達している。一方、渥美半島は黒潮が洗う温暖な地であり、豊川の谷も冬季の季節風が入らないため温暖で、それなりに暖地性の植物が生育している。本州脊梁山脈の切れ目に当たる関ヶ原に近い、太平洋側にありながら、日本海系の植物もいくつか生育している。地質的には県の南東部を中央構造線が走り、西日本系の植物もある程度見られる。濃尾平野の木曾三川下流部は三角州地帯で、もともとは広大な低湿地が広がっていた場所である。三河湾は深く内陸に入り込み、水深が浅く、塩湿地が発達している。このため、低湿地性・塩湿地性の植物も一通り見られる。尾張西部から西三河東部にかけての東海層群の丘陵地は森林の発達が悪く、やせ山の中に小湿地が点在しており、東三河にはチャートや流紋岩、石灰岩の岩山、蛇紋岩地などもあって、非森林性植物の宝庫である。シデコブシ、ホソバシクナゲ、ナガボナツハゼ、ウラジロギボウシ、シラタマホシクサなどの固有種、ヤチヤナギ、マメナシ、ヒトツバタゴ、ヒメミミカキグサなどの著しい隔離分布種もかなりある。そのため、愛知県に生育する維管束植物の種類数はかなりの数になる。しかし、他県から来た人が県内を歩き回ってみても、とてもこれほどの種類数があるとは思えないだろう。愛知県は良好な森林が少なく、植物相は一見したところかなり貧弱である。特徴的な植物は、ほとんどがあちらに1株、こちらに1株というように、僅かに生育しているだけである。全国的に見れば普通種なのに、愛知県では極めて稀という植物もかなりの数になる。種類数はまあまああるが、個体数が少ないというのが、愛知県の植物相の基本的な特徴である。以下に、県内を山地、丘陵地、平野部、海浜に分け、それぞれを更に森林、草地・岩崖地などの乾～中性の非森林域、湿地、水界に分けて植生と植物相の概要を記述するが、ここに例示したような植物は、ほとんどが絶滅が危惧される状態である。

## ○ 山地の植物

### 【 森林 】

県の北東部を占める三河山地は、天竜川沿いの一部地域と鳳来寺山周辺を除けば全体的になだらかな地形をしており、山間部に集落が点在している。そのため自然林はほとんど残存しておらず、大部分がスギ、ヒノキの造林地か、落葉広葉樹の二次林になっている。設楽町段戸山にはまとまった自然林があったが、第二次世界大戦後に伐採され、現在では裏谷の一部が学術考証林として残されているにすぎない。豊田市（旧稲武町）面ノ木峠には小面積ながらブナの自然林が残されており、そのほか断片的ではあるが、ウラジロモミ、コウヤマキなどの林もある。暖帯域では、新城市（旧鳳来町）の一部などに自然度の高い林が残されている。

三河山地は中部山岳地帯の南端に位置しており、中部山岳地帯には比較的普通に見られるが、それより南には分布していないシラカンバ、ウダイカンバ、ベニバナイチヤクソウ、セリバシオガマ、ヒメマイヅルソウのような温帯性植物の南限になっている。ヤマクワガタ、オクヤマコウモリ、ユモトマムシグサのような中部地方固有種のいくつかも、その南限が辛うじて愛知県に達している。ハイイヌガヤ、サワアザミ、ホソバカンスゲなどの日本海系の植物も見られる。愛知県とその周辺の山地森林に固有な植物であるミカワコケシノブ、トヨボタニソバ、キバナハナネコノメ、エンシユウツリフネ、タチキランソウ、ダンドタムラソウ、ワタムキアザミなども、いずれも温帯域に生育している。

一方、新城市（旧新城市から旧鳳来町にかけて）の豊川の谷は、冬季の季節風が吹き込まないために温暖で、タキミシダ、イヨクジャク、バリバリノキ、ミヤマトベラ、ナガバジュズネノキ、ルリミノキなどの暖地性の植物が生育している。東三河のチャボシライトソウ、カミガモシダ、西三河のシロバイなども分布域の東限、またはそれに近い。ただし、愛知県では中央構造線南側に大きい山がなく、クサヤツデ、テイショウソウ、チャボホトトギスのような種は生育していない。低山地の森林に見られる温帯性植物としては、東三河の一部に、著しい隔離分布となるミヤマキヌタソウが僅かに生育しているのが特に注目される。

### 【 草地・岩崖地など 】

鳳来寺山周辺は古い火山で、流紋岩や安山岩の岩山が多く、ホソバシャクナゲ、ウラジロギボウシ、コフキイワギボウシ、ピロードノリウツギ、クロバナキハギなどの固有種・準固有種が生育している。エゾノヒメクラマゴケ、キンキマメザクラ、イワシャジン、ゼンテイカなどの南限にもなっている。崖下には夏でも冷たい風が出る風穴が点在しており、ホソイノデ、ミヤマワラビ、ミツバフウロ、ハシドイなどの温帯性植物が生育している。鳳来寺山系以外の岩崖地では、天竜川に面した岩尾根に、分布域の南限となるオノオレカンバが見られる。石灰岩地は、愛知県では小規模なものが点在しているにすぎず、特徴的な植物もそれほど多くないが、コバノチョウセンエノキは分布域の東限にあたる。温帯性のイワシモツケも見られる。木曾川、庄内川、矢作川、豊川などの河川中流域の溪岸にはヤシャゼンマイ、サツキ、サワヒメスゲが多く、アオヤギバナ、キイトラックキョウなども生育している。

一方中央構造線沿いには蛇紋岩、かんらん岩などの超塩基性岩地が点在しており、半裸地状の草地や疎林となっていて、ジングウツツジ、シマジタムラソウなどの固有種やミシマサイコ、ムラサキセンブリ、ヤマジソ、マツムシソウ、ヤナギノギクなどが生育している。トサオトギリ、ヒゴタイ、ヒメユリなども生育していたが、すでに絶滅して現在は見られない。中央構造線南側はチャートの岩山が多く、固有種のナガボナツハゼ、イワタカンアオイ、分布域の東限に近いキスマレなど

が生育している。ただし、山地の尾根部などで集落共同の採草地とされてきたカヤ場は、利用の停止に伴い森林化が進み、ほとんど消失している。ムラサキ、シオガマギク、ノコギリソウ、モリアザミ、ヒメヒゴタイなどの草地性植物は、ほとんどが絶滅、またはそれに近い状態である。

#### 【 湿地と水界 】

三河山地の準平原には、ヌマガヤが優占する中間湿原が点在している。特に設楽町名倉地区と新城市（旧作手村）には規模の大きいものがあつたが、いずれも終戦後の食糧難の時代に開拓され、中心部分は消滅した。これらの湿原にはヤチシャジン、ミコシギクなどの大陸系の植物やサギスゲ、ミタケスゲ、ヌマクロボスゲ、ヒメザゼンソウなどの寒冷地系の植物が生育しており、コバイケイの一型であるミカワバイケイソウも多かったが、その多くは絶滅し、あるいは僅かに残存しているだけである。本地域の代表的な固有種の一つであるハナノキは、県の木に指定されているが、県内では自生のは少なく、小群落は豊根村の1カ所だけで、あとは単木状態である。山地の水界に生育する植物としては、コバノリュウキンカ、ウキガヤが目される。

#### ○ 丘陵地の植物

##### 【 森林 】

丘陵地では、豊橋市の太平洋（表浜）に面した急傾斜地に自然度の高いシイ林が点在しているほかは、小規模な社寺林を除けば照葉樹林はほとんど残存していない。大部分はコナラ、アベマキなどの落葉広葉樹二次林かアカマツ林であつたが、薪炭林としての利用の放棄やマツノザイセンチュウによるマツ枯れに伴って遷移が進行し、明るい林床を好む植物が激減する反面、ムヨウラン類などのよい生育地になっている。ヒメイカリソウ、アキチョウジなどの西日本系の植物や、スミレサイシン、コタチツボスミレ、オオタチツボスミレ、イワナシなどの日本海系の植物も生育している。エビネ、キンランなどは二次林の林内に多かったが、園芸目的の採取により急激に減少した。

西三河西部から尾張東部にかけての東海層群の丘陵地は、地形はなだらかであるが植生の発達が悪く、尾根部などのやせ地は貧弱なアカマツ、ソヨゴなどの林になっていることが多い。このような場所では、フモトミズナラと呼ばれるミズナラの低地型、ネズミサシとハイネズの浸透交雑に起源するオキアガリネズ、ミカワツツジと呼ばれるヤマツツジの一型などが多く見られる。

##### 【 草地・岩崖地など 】

丘陵地の里草地は急速に減少しているが、それでも全国的に見れば状況がよい方で、まだキキョウ、オミナエシなど多くの草地性植物が生育している。ただしオキナグサなどは、愛知県でもほぼ絶滅状態である。東海層群の丘陵地では、尾根部の半裸地に大陸系の植物であるウンヌケが多く生育している。水田周辺などのやや湿った草地には、ケブカツルカコソウなども見られる。愛知用水などの幹線水路沿いは定期的に草刈りが行われるため、ヒロハノカワラサイコ、イヌハギ、カセンソウなど多くの草地性植物の逃避場所になっている。しかし、近年水路のコンクリート護岸化が進行し、これらの植物の多くは危機的な状況である。知多半島先端部の人里周辺の路傍などには、分布域の東限となるヤマザトタンポポが生育している。

##### 【 湿地 】

東海層群の丘陵地では、その中の粘土層が不透水層となって、全体に乾燥した中に湧水に涵養された小湿地が点在している。チャートの岩山の麓でも、岩盤が不透水層になって湿地ができる。典型的な場所では、湧水の水質はほとんど雨水と変わらないほど貧栄養で、湿地の中心部はミミカキグサ類やケシソウ、イヌハギなどが点在するだけの裸地状となっている。その周辺に

はミカズキグサ、ヌマガヤなどが群落を作る。やや富栄養の場所は、イヌノハナヒゲ、コイヌノハナヒゲなどの群落になる。このような湧水湿地とその周辺には、シデコブシ、ヘビノボラズ、クロミノシゴリ、シラタマホシクサ、ミカワシオガマ、シマジタムラソウ、イッスンテンツキなどの固有・準固有種に加えて、ナガバノイシモチソウ、ヒメミミカキグサ、ミカワシンジュガヤなどの熱帯系の種、ヤチヤナギ、イワショウブ、ミズギク、ミカワバイケイソウなどの寒冷地性の種、マメナシ、ヒトツバタゴ、ミコシギクなどの大陸系の種が生育している。

#### 【 水界 】

丘陵地には小規模なため池が点在しており、オグラコウホネの分布の東限となっているほか、ヒメコウホネ、ガガブタ、ミカワタヌキモ、ヒメタヌキモ、マルバオモダカ、マルミスブタ、オオトリゲモ、ムサシモ、イバラモなどが生育している。秋期に水が干上がった時には、底土上にヌマカゼクサ、ウキシバ、メアゼテンツキ、クロテンツキ、アオテンツキなどが群落を作り、分布域の東限となるオオホシクサのほか、クロホシクサ、トネテンツキ、オオシロガヤツリなども生育する。谷戸田やその周辺の浅い水路などの水中には、セトヤナギスブタ、ヒロハトリゲモなどが見られる。

### ○ 平野部の植物

#### 【 森林 】

平野部の社寺林では、ウスバシケンダと仮称されるまだ正式に命名されていない植物が点在しているのが注目される。一宮市大赤見にはホンゴウソウ自生地があったが、昭和 34 年の伊勢湾台風により破壊されてしまった。河川高水敷の林内には、時にアイズゲのような、山地性の植物が生育していることがある。

#### 【 草地・岩崖地など 】

平野部の非森林植生としては、木曾川下流部の河岸砂丘が特徴的である。ここでは、カワラアカザ、ビロードテンツキなどが生育している。扇状地に発達する礫の河川敷には、カワラサイコ、カラメドハギ、カワラハハコ、カワラヨモギなどが群落を作る。河川の堤防も平野部では貴重な草地で、カワラマツバ、コケリンドウ、スズサイコ、ヒメシオンなどが見られる。人里周辺の攪乱地に生育する植物の中では、ツクシメナモミ、オナモミなどが注目される。

#### 【 湿地 】

濃尾平野の木曾三山下流部は、日本でも有数の湿地帯であったが、明治改修により大きくその姿を変えた。現在では、河川敷などに昔の面影が残されている。中小河川では、五条川が特に重要である。この地域では、キヌヤナギのほか、マルバタネツケバナ、キソガワシウドと仮称した固有分類群がある。エキサイゼリも関東地方以外では唯一の自生地であり、東日本系のシロバナタカアザミ、西日本系のホザキマスカサなども見られる。絶滅危惧種の例としてよく取り上げられるフジバカマも点在している。ただし、ヒキノカサ、ノカラマツ、ハナムグラ（岐阜県側にはある）、タチスミレなどは現在のところ発見されていない。矢作川、豊川の河川敷は、木曾川に比べれば規模が小さいが、シロネは現在のところ矢作川と境川で確認されているだけである。デンジソウ、サンショウモ、ミズタガラシ、ミズネコノオ、オオアブノメ、ミズアオイ、ミズタカモジなどは湿田の雑草であったが、乾田化により急激に減少した。

#### 【 水界 】

平野部の小水路やため池には、オニバス、フサタヌキモ、アサザ、ヒメシロアサザなど多くの水草が生育しており、水草の宝庫であったらしい。しかし、伊勢湾台風の高潮で壊滅的な打撃を受け

た後、水の汚染によって回復が進まず、現在ではほとんどの水草が絶滅状態である。トチカガミのようなものもあまり残っておらず、岐阜県側では大きな群落があるコウホネ、ササバモ、コウガイモなども愛知県では生育地が限定されている。

#### ○ 海浜の植物

##### 【 森林 】

愛知県は海岸部も全体的に開発が進み、本来の自然が残存している場所は少ない。しかし、三河湾の一部の小島には照葉樹の自然林が残されており、タチバナ、キノクニスゲなどの東限となっている。知多半島先端の師崎幡豆神社社叢にはビャクシンが自生状に生育しており、渥美半島先端部にはカンコノキ、ハクサンボクがある。

##### 【 草地・岩崖地など 】

海岸部の砂浜や砂丘は、飛砂防止のためにクロマツの植栽が進み、本来の姿は著しく失われている。伊良湖西ノ浜では、かつてはタチスズシロソウ、ハマビシなどが生育していたが絶滅した。恋路が浜にはハマオモトが生育していたらしいが、これは園芸目的の採取によって絶滅した。このほかの砂浜の植物としては、日本では他の場所で現存が確認できないハギクソウ、分布域の西限となるハマコウゾリナ、太平洋側のほぼ西限となるハイネズ、寒冷地の海岸に多いスナビキソウのほか、ハマネナシカズラ、イワダレソウ、ハマウツボ、ネコノシタ、ビロードテンツキなどが見られる。

海浜の岩崖地や風衝地には、ハマヒサカキ、ハチジョウススキ、ハマカンゾウ、アゼトウナなどが生育している。ただし、特徴的な植物はそれほど多くなく、ボタンボウフウ、イソギク、ヒゲスゲなどもごく僅かに見られるだけである。むしろ、ラセイタソウなどが生育していないことが特徴である。三河湾の篠島、日間賀島、佐久島などには、県内の他の場所ではほとんど見られないハチジョウイノコヅチが比較的多く生育している。

##### 【 湿地 】

三河湾奥部の塩湿地は、埋立てにより相当部分が消失している。僅かに残された部分には、分布域の東限となるヒロハマツナ、フクドのほか、イソホウキギ、ハマサジ、シバナ、ハマボウ、ヒメヨモギ、ウラギク、イセウキヤガラなどが生育している。伊勢湾では塩湿地はほとんど残存しておらず、貯木場跡などの二次的な場所も最近の開発で急速に消滅した。現在では僅かにウラギク、シバナ、イセウキヤガラなどが見られるにすぎない。水路わきや養魚場跡の湿地には、チャボイなどが生育している。

##### 【 水界 】

海岸近くの小水路、養魚場跡などには、カワツルモ、ツツイトモ、リュウノヒゲモなどが生育している。これらの水草は減少傾向が著しいが、一部にはまだ大きい群落がある。海域の水中に生育する海産種子植物はもともと種類数が少なく、愛知県では、内湾性のアマモ、コアマモ、ウミヒルモ（絶滅）、外洋性のエビアマモの4種が記録されているだけである。

#### 愛知県における絶滅危惧種の概況

今回のリストに掲載された絶滅危惧Ⅱ類以上の絶滅・絶滅危惧種は、10頁の表6に示すように463である。この数は、愛知県の本来の野生植物種約2,220の約21%にあたる。準絶滅危惧種を含めた数は587で、全体の約26%にあたる。環境省のレッドリストでは、絶滅危惧Ⅱ類以上が1,731で総数約7,000の約25%、準危惧種・情報不足種を含めた数は2,018で約29%となっており、比率とし

ては愛知県の方がやや低めである。この原因は、主として環境省版では対象地域の中に南西諸島、小笠原諸島などの絶滅危惧植物の割合が極めて高い地域を含むことによると思われるが、一部は不十分な数値情報をもとに評価が行われたため、どう見ても絶滅危惧植物には該当しそうな種が混入していることにもよる。

植物群毎に見ると、園芸目的で採取されることが多いラン科、ユリ科、水草や湿地性植物の多いトチカガミ科、ヒルムシロ科、イバラモ科、ホシクサ科、カヤツリグサ科などを含む単子葉植物は、他の群に比べて絶滅危惧種の割合が高くなっている。ラン科は特に絶滅危惧種の割合が高く、愛知県の自生種総数 **80** のうち **53** が今回のリストに掲載されている。

カテゴリー毎の割合を見ると、準絶滅危惧種を含めた総数 **587** のうち、絶滅 (EX) は **42 (7.2%)**、絶滅危惧 I A 類 (CR) は **58 (9.9%)**、絶滅危惧 I B 類 (EN) は **163 (27.8%)**、絶滅危惧 II 類 (VU) は **200 (34.1%)**、準絶滅危惧 (NT) は **124 (21.1%)** である。一方環境省のレッドリストでは、絶滅・野生絶滅は **41 (2.0%)**、絶滅危惧 I A 類は **523 (25.9%)**、絶滅危惧 I B 類は **491 (24.3%)**、絶滅危惧 II 類は **676 (33.5%)**、準絶滅危惧は **255 (12.6%)**、このほかに情報不足 (DD) として掲載されたものが **32** あり、全掲載種数は **2,018** である。両者を比較すると絶滅・野生絶滅の割合は愛知県の方がかなり高く、これは対象面積の狭さと、大都市近郊という地理的な特性によるものと思われる。絶滅危惧 I A 類の割合は逆に愛知県の方がかなり少ないが、これは資料編で述べたように、評価手法の差によるものと考えられる。

減少の要因は各種毎にそれぞれ記述したが、全体としてみると開発による生育地の破壊（水の汚染による生育環境の破壊を含む）、里山の二次林や草地の利用停止に伴う遷移の進行（造林地の手入れ不足による被陰を含む）、園芸目的の採取が、植物を絶滅の危機に追い込んでいる三大要因である。このうち遷移の進行は、それ自体は自然現象である。しかし、遷移の進行が問題になる背景としては、その前段階として人間が生活域を拡大する過程でさまざまな遷移段階を含む本来の自然環境を破壊し、それらの植物のもともとの生活場所を奪って、彼らを薪炭林や採草地、あるいは造林地のような人為的環境に追い込んできたという経緯がある。湧水湿地の植物にしても、治山事業等によって新たな湿地が形成される条件をなくせば、遷移に追われた植物は次の行き場を失ってしまう。このような見方をすれば、一部の先駆種的な植物以外の大部分の種については、遷移の進行も人為的環境破壊の一つの型と見なすべきである。また、「レッドデータブックあいち **2001** 植物編」刊行後、特に顕著になったのがニホンジカによる食害で、三河山地のところどころで林床植生が消失しつつある。鈴鹿山脈や大台ヶ原山のような壊滅的狀態になる前に、早く対策を講じる必要がある。

一方、環境省のレッドリストに掲載されているが今回愛知県で絶滅危惧種・準絶滅危惧種と判定されなかった植物も **25** 種ある。これらのうち一部は、愛知県では絶滅が危惧されるような状態ではないが全国的には減少傾向の著しい植物で、その意味で愛知県においても「全国的に危急」としてリストに掲載し、保護の対象としてよい植物である。他の一部は、情報不足のため環境省のリストに掲載されたと思われるもので、これらは将来調査が進めば、リストから削除される可能性が高い。しかし今回は、この両者を的確に区別するだけの資料がなかったため、「全国的に危急」というカテゴリーは設置しなかった。これら **25** 種については、「国リスト」としてレッドリストに掲載し、「掲載種の解説」の章では他の掲載種とほぼ同様の形式で県内の状況を記述した。

なお、「レッドデータブックあいち **2001** 植物編」掲載種のうち、今回の見直しによってリストから除外された種とその理由は以下のとおりである。

## 除外種

No.	科名	和名	見直し前 県ランク	除外理由
1	チャセンシダ	トキワトランオ	NT	新たな自生地が確認され、集団数階級が低下した。
2	カバノキ	シラカンバ	NT	幼木の確認地点が増加し、集団数階級が低下した。
3	アカザ	マツナ	CR	2001年以降、生育地も個体数も激増した。帰化系統の疑いがある ので、評価の対象から除外した。
4	マツモ	マツモ	NT	新たな自生地が確認され、個体数階級が低下した。
5	バラ	オオフユイチゴ	NT	新たな自生地が確認され、集団数階級が低下した。
6	セリ	ハマゼリ	NT	攪乱跡地でも生育しており、生育環境階級が低下した。
7	セリ	ミヤマブニンジン	NT	新たな自生地が確認され、集団数階級が低下した。
8	アカネ	ウスユキムグラ	NT	今回は固有度階級を2としたが、1が適切である。
9	トチカガミ	セキシウモ	NT	新たな自生地が確認され、個体数階級が低下した。
10	アマモ	コアマモ	NT	国リストから削除されたため、固有度階級が低下した。詳細は資料編 の「Q and A」参照。
11	イグサ	クロボシソウ	VU	豊根は誤同定と判断された(将来別の名で復活する可能性がある)。 稲武はヌカボシソウの極端型の可能性があり、評価を保留した。
12	カヤツリグサ	スルガスゲ	EN	誤同定と判断された。今回はホソバカンスゲ(614頁)として掲載し た。
13	カヤツリグサ	ヒロハノコジュズスゲ	EN	作手産の標本に基づき記載された分類群であるが、分類群としての 独立性が疑わしいため、今回は評価を保留した。
14	ラン	クロヤツシロラン	NT	新たな自生地が確認されて集団数階級が低下し、国リストから削除 されたため固有度階級も低下した。
15	ラン	キムヨウラン	CR	ホクリウムヨウランの品種であることが判明したため、評価の対象から 除外した。

また、最初の愛知県レッドデータブックとして NGO 団体である愛知県植物誌調査会から 1996 (平成 8) 年に発行された「植物からの SOS—愛知県の絶滅危惧植物」のリストに掲載されているが今回のリストに掲載されなかった植物は、ハシバミ、ツルソバ、マダイオウ、ハママツナ、トウゴクサバノオ、コウモリカズラ、メノマンネングサ、ゴキヅル、ミヤマウコギ、オオルリソウ、タチカメバソウ、ミカエリソウ、ヤマウツボ、ヤマタイミンガサ、オオモミジガサ、クサスギカズラ、カタクリ、ヤマガシユウ、ヒメコウガイゼキショウ、ホガエリガヤ、ヌマカゼクサ、コウボウ、サワヒメスゲ、ヒメスゲ、シロガヤツリ、イソヤマテンツキ、イセウキヤガラ、ヒメフタバラン、アオフタバランの 29 種で、これらもその大部分は調査が進んだ結果新産地が発見され、集団数や個体数が増加してしまったものであり、一部は目立つ種のため SOS リストに掲載されたが、定量的に評価してみると絶滅危惧種には該当しなかったというものである。クロイヌノヒゲは、「レッドデータブックあいち 2001 植物編」では掲載されなかったが、今回はツクシクロイヌノヒゲとして復活した。

なお、一般に独立種または変種とされているが、近縁種や母種との区別が微妙または軽微で、更に検討の必要があると思われるオオヤマオダマキ、ユキヨモギ、キクバヤマボクチ、オオギョウギシバなど、一般にあまり理解されておらず、分布調査が不十分と思われるコヒロハシケンダ、最近愛知県に生育することが報告されたが、最終的に標本が確認できなかったナガサキンダについては、今回は評価を保留し、リストに掲載しなかった。また、愛知県では一時的に出現した(する)だけで定着していないハチジョウシダモドキ、メヤブソテツ(第二次レッドリストでは評価を行ったが、詳細な状況を聞くとやはり定着していないとする方がよさそうである)、クジラグサ、タカアザミ(シロバナタカアザミでないもの)、ウスベニニガナなど、移入の可能性が高いクサフジ、グンナイフウロ、タチフウロなどは、評価の対象から除外した。移入の可能性が否定しきれないビヤクシン、レンリソウ、ヒロハクサフジ、タチバナ、ミズバショウなどについては、評価を行った上で状況の特記事項等に記述した。ミカワザサも雑種性ということで、評価の対象から除外した。

愛知県維管束植物レッドリスト

科の範囲、名称、配列は「日本の野生植物」(平凡社)に準拠した。科内の配列については、学名のアルファベット順とした。

絶滅 (EX)

No.	科名	和名	学名	国ランク
1	オシダ	オリヅルシダ	<i>Polystichum lepidocaulon</i> (Hook.) J.Sm.	
2	メシダ	ミヤマシダ	<i>Diplazium sibiricum</i> (Turcz. ex Kunze) Sa.Kurata var. <i>glabrum</i> (Tagawa) Sa.Kurata	
3	オトギリソウ	トサオトギリ	<i>Hypericum tosaense</i> Makino	CR
4	アブラナ	タチスズシロソウ	<i>Arabis kawasakiana</i> Makino	EN
5	ベンケイソウ	ベンケイソウ	<i>Hylotelephium erythrostictum</i> (Miq.) H.Ohba	
6	ハマビシ	ハマビシ	<i>Tribulus terrestris</i> L.	EN
7	ニシキギ	ヒロハツリバナ	<i>Euonymus macropterus</i> Rupr.	
8	クロウメモドキ	ハマナツメ	<i>Pariurus ramosissimus</i> (Lour.) Poir.	VU
9	ミソハギ	ミズスギナ	<i>Rotala hippuris</i> Makino	EN
10	アカバナ	ヤナギラン	<i>Chamaenerion angustifolium</i> (L.) Scop.	
11	セリ	ヌマゼリ	<i>Sium suave</i> Walter subsp. <i>nipponicum</i> (Maxim.) Sugim.	VU
12	ミツガシワ	ミツガシワ	<i>Menyanthes trifoliata</i> L.	
13	ヒルガオ	マメダオシ	<i>Cuscuta australis</i> R.Br.	CR
14	ムラサキ	ハイルリソウ	<i>Omphalodes prolifera</i> Ohwi	CR
15	ゴマノハグサ	タチコゴメグサ	<i>Euphrasia maximowiczii</i> Wettst.	
16	ゴマノハグサ	ゴマノハグサ	<i>Scrophularia buergeriana</i> Miq.	VU
17	ヒシモドキ	ヒシモドキ	<i>Trapella sinensis</i> Oliver	EN
18	ハマウツボ	オオナンパンギセル	<i>Aeginetia sinensis</i> G.Beck.	
19	タヌキモ	フサタヌキモ	<i>Utricularia dimorphantha</i> Makino	EN
20	タヌキモ	コタヌキモ	<i>Utricularia intermedia</i> Heyne	
21	キキョウ	ヤチシャジン	<i>Adenophora palustris</i> Kom.	CR
22	キク	ノコギリソウ	<i>Achillea alpina</i> L.	
23	キク	カニコウモリ	<i>Cacalia adenostyloides</i> (Franch. et Sav.) Matsum.	
24	キク	モリアザミ	<i>Cirsium dipsacolepis</i> (Maxim.) Matsum.	
25	キク	フジアザミ	<i>Cirsium purpuratum</i> (Maxim.) Matsum.	
26	キク	ヒゴタイ	<i>Echinops setifer</i> Iljin	VU
27	キク	ヤマタバコ	<i>Ligularia angusta</i> (Nakai) Kitam.	CR
28	トチカガミ	ウミヒルモ	<i>Halophila ovalis</i> (R.Br.) Hook.f.	NT
29	ヒルムシロ	センニンモ	<i>Potamogeton maackianus</i> A.Benn.	
30	イトクズモ	イトクズモ	<i>Zannichellia palustris</i> L. var. <i>indica</i> (Cham.) Graebn.	VU
31	ユリ	ヒメユリ	<i>Lilium concolor</i> Salisb.	EN
32	ヒガンバナ	ハマオモト	<i>Crinum asiaticum</i> L. var. <i>japonicum</i> Baker	
33	イネ	ピロードキビ	<i>Brachiaria villosa</i> (Lam.) A.Camus	EN
34	カヤツリグサ	トダスゲ	<i>Carex aequialta</i> Kükenth.	EN
35	カヤツリグサ	アワボスゲ	<i>Carex nipposinica</i> Ohwi	
36	カヤツリグサ	ミスミイ	<i>Eleocharis acutangula</i> (Roxb.) Shult.	EN
37	カヤツリグサ	ツクシカンガレイ	<i>Scirpus multisetus</i> (Hayas. et C.Sato)	
38	ラン	ヒナラン	<i>Amitostigma gracile</i> (Blume) Schltr.	EN
39	ラン	カンラン	<i>Cymbidium kanran</i> Makino	CR
40	ラン	オオミズトンボ	<i>Habenaria lineariflora</i> Maxim.	CR
41	ラン	ムカゴソウ	<i>Herminium lanceum</i> (Thunb.) Vuijk var. <i>longicrura</i> (Wright) H.Hara	NT
42	ラン	ツクシサカネラン	<i>Neottia kiusiana</i> Hashim. et Hatus.	CR

絶滅危惧 A類 (CR)

No.	科名	和名	学名	国ランク
1	ヒカゲノカズラ	ヒモラン	<i>Lycopodium sieboldii</i> Miq.	EN
2	ヒメシダ	ニッコウシダ	<i>Thelypteris nipponica</i> (Franch. et Sav.) Ching	
3	アカウキクサ	アカウキクサ	<i>Azolla imbricata</i> (Roxb. ex Griff.) Nakai	VU
4	ヤマモモ	ヤチヤナギ	<i>Gale belgica</i> Duham. var. <i>tomentosa</i> (C.DC.) Yamazaki	
5	イラクサ	ミヤコミズ	<i>Pilea kiotensis</i> Ohwi	VU
6	アカザ	ヒロハマツナ	<i>Suaeda malacosperma</i> H.Hara	VU
7	キンボウゲ	コバナリュウキンカ	<i>Caltha palustris</i> L. var. <i>nipponica</i> H.Hara form. <i>pygmaea</i> (Makino) Ohwi	
8	キンボウゲ	タマカラマツ	<i>Thalictrum watanabei</i> Yatabe	VU
9	スイレン	オニバス	<i>Euryale ferox</i> Salisb.	VU
10	スイレン	オグラコウホネ	<i>Nuphar oguraense</i> Miki	VU
11	モウセンゴケ	ナガバナイシモチソウ	<i>Drosera indica</i> L.	VU
12	モウセンゴケ	シロバナナガバナイシモチソウ	<i>Drosera</i> sp.	VU
13	バラ	ヒロハノカワラサイコ	<i>Potentilla nipponica</i> Th.Wolf	VU

14	バラ	マメナシ	<i>Pyrus calleryana</i> Decne.	EN
15	バラ	イワシモツケ	<i>Spiraea nipponica</i> Maxim.	
16	アマ	マツバニンジン	<i>Linum stelleroides</i> Planch.	CR
17	トウダイグサ	ハギクソウ	<i>Euphorbia esula</i> L. var. <i>nakaii</i> (Hurusawa) Hurusawa	CR
18	カエデ	ハナノキ	<i>Acer pycnanthum</i> K.Koch	VU
19	スミレ	キスミレ	<i>Viola orientalis</i> (Maxim.) W.Becker	
20	セリ	キソガワシシウド	<i>Angelica</i> sp.	
21	セリ	エキサイゼリ	<i>Apodicarpum ikenoi</i> Makino	NT
22	ツツジ	ナガボナツハゼ	<i>Vaccinium sieboldii</i> Miq.	CR
23	サクラソウ	ノジトラノオ	<i>Lysimachia barystachys</i> Bunge	VU
24	マチン	ヒメナエ	<i>Mitrasacme indica</i> Wight	VU
25	ガガイモ	クサタチバナ	<i>Cynanchum ascyrifolium</i> (Franch. et Sav.) Matsum.	NT
26	アカネ	ミヤマキヌタソウ	<i>Galium nakaii</i> Kudo	
27	ムラサキ	ムラサキ	<i>Lithospermum officinale</i> L. subsp. <i>erythrorhizon</i> (Sieb. et Zucc.) Hand.-Mazz.	EN
28	シソ	キセウタ	<i>Leonurus macranthus</i> Maxim.	VU
29	シソ	ヒメハッカ	<i>Mentha japonica</i> (Miq.) Makino	NT
30	ゴマノハグサ	イズコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> Wettst. subsp. <i>iinumae</i> (Takeda) Yamazaki var. <i>idzuensis</i> (Takeda) Yamazaki	EN
31	キキョウ	バアソブ	<i>Codonopsis ussuriensis</i> (Rupr. et Maxim.) Hemsl.	VU
32	キク	ヒメヨモギ	<i>Artemisia feddei</i> Lev. et Van.	
33	キク	コバナガンクビソウ	<i>Carpesium faberii</i> Winker	VU
34	キク	イソギク	<i>Dendranthema pacificum</i> (Nakai) Kitam.	
35	キク	ヤマジノギク	<i>Heteropappus hispidus</i> (Thunb.) Less.	
36	キク	ミコシギク	<i>Leucanthemella linearis</i> (Matsum.) Tzvelev	VU
37	キク	ヒメヒゴタイ	<i>Saussurea pulchella</i> Fisch.	VU
38	ユリ	サクライソウ	<i>Protolirion sakuraii</i> (Makino) Dandy	EN
39	ミズアオイ	ミズアオイ	<i>Monochoria korsakowii</i> Regel et Maack	NT
40	サトイモ	ヒトツバテンナンショウ	<i>Arisaema monophyllum</i> Nakai	
41	サトイモ	ミズバショウ	<i>Lysichiton camtschatcense</i> (L.) Schott	
42	ミクリ	ヒメミクリ	<i>Sparganium stenophyllum</i> Maxim.	VU
43	カヤツリグサ	ヌマクロボスゲ	<i>Carex meyeriana</i> Kunth	VU
44	カヤツリグサ	ホザキマスクサ	<i>Carex planata</i> Franch. et Sav. var. <i>anguste-alata</i> Akiyama	VU
45	カヤツリグサ	サギスゲ	<i>Eriophorum gracile</i> Koch	
46	カヤツリグサ	イッスンテンツキ	<i>Fimbristylis kadzusan</i> Ohwi	CR
47	カヤツリグサ	ナガボテンツキ	<i>Fimbristylis longispica</i> Steud.	
48	カヤツリグサ	ミクリガヤ	<i>Rhynchospora malasica</i> C.B. Clarke	EN
49	カヤツリグサ	カガシラ	<i>Scleria caricina</i> (R.Br.) Benth.	VU
50	ラン	ナギラン	<i>Cymbidium lancifolium</i> Hook.	VU
51	ラン	マヤラン	<i>Cymbidium nipponicum</i> (Franch. et Sav.) Makino	VU
52	ラン	コアツモリソウ	<i>Cypripedium debile</i> Reichb.f.	NT
53	ラン	サワラン	<i>Eleocharis japonica</i> (A.Gray) F.Maek.	
54	ラン	ナヨテンマ	<i>Gastrodia gracilis</i> Blume	EN
55	ラン	ムカゴトンボ	<i>Habenaria flagellifera</i> Makino	EN
56	ラン	フガクスズムシソウ	<i>Liparis fujiisanensis</i> F.Maek.	VU
57	ラン	スズムシソウ	<i>Liparis makinoana</i> Schltr.	
58	ラン	ツレサギソウ	<i>Platanthera japonica</i> (Thunb.) Lindl.	

### 絶滅危惧 B類 (EN)

No.	科名	和名	学名	国ランク
1	イワヒバ	エゾノヒメクラマゴケ	<i>Selaginella helvetica</i> (L.) Link	
2	コケシノブ	チチブホラゴケ	<i>Crepidomanes schmidtianum</i> (Zenker ex Tasch.) K.Iwats.	
3	シシラン	タキミシダ	<i>Antrophyum obovatum</i> Baker	EN
4	チャセンシダ	カミガモシダ	<i>Asplenium oligophlebium</i> Baker	
5	チャセンシダ	ヒノキシダ	<i>Asplenium prolongatum</i> Hook.	
6	オシダ	タカサゴシダ	<i>Dryopteris formosana</i> (Christ) C. Chr.	
7	オシダ	ホソイノデ	<i>Polystichum braunii</i> (Spenn.) Fée	
8	ヒメシダ	ヨコグラヒメワラビ	<i>Thelypteris hattorii</i> (H.Ito) Tagawa	
9	ヒメシダ	テツホシダ	<i>Thelypteris interrupta</i> (Willd.) K.Iwats.	
10	ヒメシダ	オオバショリマ	<i>Thelypteris quepaertensis</i> (Christ) Ching	
11	メシダ	ミヤマメシダ	<i>Athyrium melanolepis</i> (Franch. et Sav.) Christ	
12	メシダ	ヒロハノコギリシダ	<i>Diplazium dilatatum</i> Blume	
13	メシダ	シマシロヤマシダ	<i>Diplazium doederleinii</i> (Luerss.) Makino	
14	メシダ	イヨクジャク	<i>Diplazium okudairae</i> Makino	
15	メシダ	ニセコクモウクジャク	<i>Diplazium virescens</i> Kunze var. <i>conterminum</i> (Christ) Sa.Kurata	
16	メシダ	エビラシダ	<i>Gymnocarpium oyamense</i> (Baker) Ching	
17	ウラボシ	クラガリシダ	<i>Dryotaenium miyoshianum</i> (Makino) Makino	EN
18	ウラボシ	ヌカボシクリハラソウ	<i>Microsorium buergerianum</i> (Miq.) Ching	
19	デンジソウ	デンジソウ	<i>Marsilea quadrifolia</i> L.	VU
20	サンショウモ	サンショウモ	<i>Salvinia natans</i> (L.) All.	NT
21	アカウキクサ	オオアカウキクサ	<i>Azolla japonica</i> Franch. et Sav.	VU

22	ヒノキ	ビャクシン	<i>Juniperus chinensis</i> L.	
23	イチイ	イチイ	<i>Taxus cuspidata</i> Sieb. et Zucc.	
24	ブナ	ナラガシワ	<i>Quercus aliena</i> Blume	
25	ニレ	コバノチョウセンエノキ	<i>Celtis biondii</i> Pampan.	
26	クワ	カジノキ	<i>Broussonetia papyrifera</i> (L.) Vent.	
27	ツチトリモチ	ミヤマツチトリモチ	<i>Balanophora nipponica</i> Makino	VU
28	タデ	ナガバナヤノネグサ	<i>Persicaria brevichroata</i> (Makino) Ohki	
29	タデ	ヒメタデ	<i>Persicaria erecto-minor</i> (Makino) Nakai	VU
30	タデ	ノダイオウ	<i>Rumex longifolius</i> DC.	NT
31	ナデシコ	ヒゲネワチガイソウ	<i>Pseudostellaria palibiniana</i> (Takeda) Ohwi	
32	アカザ	ミドリアカザ	<i>Chenopodium bryoniaefolium</i> Bunge	CR
33	キンボウゲ	ヤマトリカブト	<i>Aconitum japonicum</i> Thunb. var. <i>montanum</i> Nakai	
34	キンボウゲ	エンコウソウ	<i>Caltha palustris</i> L. var. <i>enkoso</i> H.Hara	
35	キンボウゲ	ハコネシロカネソウ	<i>Dichocarpum hakonense</i> (F.Maek. et Tuyama) W.T.Wang et Hsiao	VU
36	キンボウゲ	オキナグサ	<i>Pulsatilla cernua</i> (Thunb.) Sprenger	VU
37	スイレン	コウホネ	<i>Nuphar japonicum</i> DC.	
38	スイレン	ヒメコウホネ	<i>Nuphar subintegerrimum</i> (Casp.) Makino	VU
39	マツモ	ゴハリノマツモ	<i>Ceratophyllum demersum</i> L. var. <i>quadrifidum</i> Makino	
40	ウマノスズクサ	イワタカンアオイ	<i>Heterotropa kurosawae</i> (Sugim.) F.Maek.	VU
41	ボタン	ベニバナヤマシャクヤク	<i>Paeonia obovata</i> Maxim.	VU
42	ケシ	ナガミノツルケマン	<i>Corydalis ochotensis</i> Turcz. var. <i>raddeana</i> (Regel) Nakai	NT
43	ケシ	ヤマキケマン	<i>Corydalis ophiocarpa</i> Hook. et Thoms.	
44	アブラナ	コンロンソウ	<i>Cardamine leucantha</i> (Tausch.) O.E.Schulz	
45	ベンケイソウ	アオベンケイ	<i>Hylotelephium viride</i> (Makino) H.Ohba	
46	ユキノシタ	コガクウツギ	<i>Hydrangea luteo-venosa</i> Koidz.	
47	ユキノシタ	シラヒゲソウ	<i>Parnassia foliosa</i> Hook.f. et Thoms. var. <i>nummularia</i> (Maxim.) T.Ito	
48	ユキノシタ	ヤシャビシャク	<i>Ribes ambiguum</i> Maxim.	NT
49	バラ	シモツケソウ	<i>Filipendula multijuga</i> Maxim.	
50	バラ	オオダイコンソウ	<i>Geum aleppicum</i> Jacq.	
51	バラ	エチゴツルキジムシロ	<i>Potentilla toyamensis</i> Naruhashi et T.Sato	
52	バラ	ミヤマチョウジザクラ	<i>Prunus apetala</i> (Sieb. et Zucc.) Franch. et Sav.	
53	バラ	キンクマメザクラ	<i>Prunus incisa</i> Thunb. var. <i>kinkiensis</i> (Koidz.) Ohwi	
54	バラ	アイズシモツケ	<i>Spiraea chamaedryfolia</i> L. var. <i>pilosa</i> (Nakai) H.Hara	
55	マメ	ハマナタマメ	<i>Canavalia lineata</i> (Thunb.) DC.	
56	マメ	シバハギ	<i>Desmodium heterocarpon</i> (L.) DC.	
57	マメ	ミヤマトベラ	<i>Euchresta japonica</i> Hook.f. ex Regel	
58	マメ	クロバナキハギ	<i>Lespedeza bicolor</i> Turcz. var. <i>higoensis</i> (T.Shimizu) Murata	VU
59	マメ	ノハラクサフジ	<i>Vicia amurensis</i> Oettingen	
60	マメ	ビワコエビラフジ	<i>Vicia venosa</i> (Willd.) Maxim. var. <i>stolonifera</i> Endo et Ohashi	
61	カタバミ	オオヤマカタバミ	<i>Oxalis obtriangulata</i> Maxim.	VU
62	フウロソウ	ミツバフウロ	<i>Geranium wilfordii</i> Maxim.	
63	フウロソウ	ピッチウフウロ	<i>Geranium yoshinoi</i> Makino	
64	ミカン	タチバナ	<i>Citrus tachibana</i> (Makino) C.Tanaka	VU
65	クロウメモドキ	ヨコグラノキ	<i>Berchemia berchemiaefolia</i> (Makino) Koidz.	
66	クロウメモドキ	ケンボナシ	<i>Hovenia dulcis</i> Thunb.	
67	スマレ	オオタチツボスマレ	<i>Viola kusanoana</i> Makino	
68	スマレ	シロスマレ	<i>Viola patrinii</i> DC.	
69	スマレ	スマレサイシン	<i>Viola vaginata</i> Maxim.	
70	ヒシ	ヒメビシ	<i>Trapa incisa</i> Sieb. et Zucc.	VU
71	セリ	ミシマサイコ	<i>Bupleurum scorzoneraefolium</i> Willd. var. <i>stenophyllum</i> Nakai	VU
72	セリ	ボタンポウフウ	<i>Peucedanum japonicum</i> Thunb.	
73	イワウメ	イワカガミ	<i>Schizocodon soldanelloides</i> Sieb. et Zucc.	
74	イチヤクソウ	ベニバナイチヤクソウ	<i>Pyrola incarnata</i> Fisch.	
75	ツツジ	イワナシ	<i>Epigaea asiatica</i> Maxim.	
76	ツツジ	ジングウツツジ	<i>Rhododendron sanctum</i> Nakai	VU
77	サクラソウ	トウサワトラノオ	<i>Lysimachia candida</i> Lindl.	EN
78	ハイノキ	シロバイ	<i>Symplocos lancifolia</i> Sieb. et Zucc.	
79	モクセイ	ヒトツバタゴ	<i>Chionanthus retusus</i> Lindl. et Paxton	VU
80	モクセイ	トネリコ	<i>Fraxinus japonica</i> Blume	
81	ミツガシワ	ヒメシロアサザ	<i>Nymphoides coreana</i> (Lev.) H.Hara	VU
82	ミツガシワ	アサザ	<i>Nymphoides peltata</i> (Gmel.) O.Kuntze	NT
83	ガガイモ	タチガシワ	<i>Cynanchum magnificum</i> Nakai	
84	アカネ	ナガバジュズネノキ	<i>Damnacanthus macrophyllus</i> Sieb. ex Miq. form. <i>giganteus</i> (Makino) Yamazaki	
85	アカネ	オオキヌタソウ	<i>Rubia chinensis</i> Regel et Maack var. <i>glabrescens</i> (Nakai) Kitagawa	
86	ヒルガオ	ハマネナシカズラ	<i>Cuscuta chinensis</i> L.	VU
87	ムラサキ	スナビキソウ	<i>Messerschmidia sibirica</i> L.	
88	クマツツラ	ハマクサギ	<i>Premna microphylla</i> Turcz.	
89	シソ	ケバカツルカソウ	<i>Ajuga shikotanensis</i> Miyabe et Tatewaki form. <i>hirsuta</i> (Honda) Murata	EN
90	シソ	アシタカジャコウソウ	<i>Chelonopsis yagiharana</i> Hisauti et Matsuno	
91	シソ	コナミキ	<i>Scutellaria guillemii</i> A.Gray	VU

92	シソ	イブキジャコウソウ	<i>Thymus serpyllum</i> L. subsp. <i>quinquecostatus</i> (Celak.) Kitam.	
93	ゴマノハグサ	セリバシオガマ	<i>Pedicularis keiskei</i> Franch. et Sav.	
94	ゴマノハグサ	ミカワシオガマ	<i>Pedicularis resupinata</i> L. var. <i>microphylla</i> Honda	EN
95	ゴマノハグサ	シオガマギク	<i>Pedicularis resupinata</i> L. var. <i>oppositifolia</i> Miq.	
96	ゴマノハグサ	ヤマクワガタ	<i>Veronica japonensis</i> Makino	
97	ハマウツボ	ハマウツボ	<i>Orobanche coerulescens</i> Steph. ex Willd.	VU
98	タヌキモ	ミカワタヌキモ	<i>Utricularia exoleta</i> R.Br.	VU
99	タヌキモ	ヒメミカキグサ	<i>Utricularia minutissima</i> Vahl	EN
100	オオバコ	トウオオバコ	<i>Plantago major</i> L. var. <i>japonica</i> (Franch. et Sav.) Miyabe	
101	スイカズラ	コウグイスカグラ	<i>Lonicera ramosissima</i> Franch. et Sav.	
102	スイカズラ	ミヤマシグレ	<i>Viburnum urceolatum</i> Sieb. et Zucc. form. <i>procumbens</i> (Nakai) H.Hara	
103	スイカズラ	イワツクバネウツギ	<i>Zabelia integrifolia</i> (Koidz.) Makino	VU
104	キク	フクド	<i>Artemisia fukudo</i> Makino	NT
105	キク	オクヤマコウモリ	<i>Cacalia hastata</i> L. subsp. <i>farfaraefolia</i> (Maxim.) Kitam. var. <i>alata</i> Kitam.	
106	キク	オオガシラ	<i>Carpesium macrocephalum</i> Franch. et Sav.	
107	キク	シロバナタカアザミ	<i>Cirsium pendulum</i> Fisch. var. <i>albiflorum</i> Makino	
108	キク	サウアザミ	<i>Cirsium yezoense</i> (Maxim.) Makino	
109	キク	フジバカマ	<i>Eupatorium fortunei</i> Turcz.	NT
110	キク	ハマコウゾリナ	<i>Picris hieracioides</i> L. subsp. <i>japonica</i> (Thunb.) Krylov var. <i>littoralis</i> Kitam.	
111	キク	ミカワトウヒレン	<i>Saussurea</i> sp.	
112	キク	オナモミ	<i>Xanthium strumarium</i> L.	VU
113	オモダカ	マルバオモダカ	<i>Caldesia parnassifolia</i> (Bassi ex L.) Parlat.	VU
114	トチカガミ	セトヤナギスブタ	<i>Blyxa alternifolia</i> (Miq.) Den Hartog	EN
115	トチカガミ	マルミスブタ	<i>Blyxa aubertii</i> L.C.Rich.	VU
116	トチカガミ	トチカガミ	<i>Hydrocharis dubia</i> (Blume) Backer	NT
117	イバラモ	ムサシモ	<i>Najas ancistocarpa</i> A.Br.	CR
118	ユリ	ヒロハノアマナ	<i>Amana latifolia</i> (Makino) Honda	VU
119	ユリ	キジカクシ	<i>Asparagus schoberioides</i> Kunth	
120	ユリ	ステゴビル	<i>Caloscordum inutile</i> (Makino) Okuyama et Kitagawa	VU
121	ユリ	チャボシライトソウ	<i>Chionographis koidzumiana</i> Ohwi	VU
122	ユリ	ミノコバイモ	<i>Fritillaria japonica</i> Miq.	VU
123	ユリ	コシノコバイモ	<i>Fritillaria japonica</i> Miq. var. <i>koidzumiana</i> (Ohwi) H.Hara et Kanai	
124	ユリ	キバナノアマナ	<i>Gagea lutea</i> (L.) Ker-Gawl.	
125	ユリ	ゼンテイカ	<i>Hemerocallis dumortierii</i> Morr. var. <i>esculenta</i> (Koidz.) Kitam.	
126	ユリ	ウラジロギボウシ	<i>Hosta hypoleuca</i> Murata	EN
127	ユリ	ホソバナノアマナ	<i>Lloydia triflora</i> (Ledeb.) Baker	
128	ユリ	ヒメマイヅルソウ	<i>Maianthemum bifolium</i> (L.) F.W.Schm.	
129	ユリ	エンレイソウ	<i>Trillium smallii</i> Maxim.	
130	ユリ	ミカワバイケイソウ	<i>Veratrum stamineum</i> Maxim. var. <i>micranthum</i> Satake	VU
131	キンバイザサ	コキンバイザサ	<i>Hypoxis aurea</i> Lour.	
132	アヤメ	アヤメ	<i>Iris sanguinea</i> Hornem.	
133	イグサ	イヌイ	<i>Juncus yokoscensis</i> (Franch. et Sav.) Satake	
134	ホシクサ	オオホシクサ	<i>Eriocaulon buergerianum</i> Koernicke	
135	ホシクサ	ミカワイヌヒゲ	<i>Eriocaulon mikawanum</i> Satake et T.Koyama	VU
136	イネ	ミズタカモジ	<i>Agropyron humidum</i> Ohwi et Sakamoto	VU
137	イネ	ウキガヤ	<i>Glyceria depauperata</i> Ohwi	
138	イネ	ムカゴツツリ	<i>Poa tuberifera</i> Faurie ex Hack.	
139	イネ	ハネガヤ	<i>Stipa pekinensis</i> Hance	
140	サトイモ	ヤマトテンナンショウ	<i>Arisaema longilaminum</i> Nakai	
141	サトイモ	ユモトマムシグサ	<i>Arisaema nikoense</i> Nakai	
142	サトイモ	ヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema ovale</i> Nakai var.	
143	サトイモ	ミクニテンナンショウ	<i>Arisaema planilaminum</i> J.Murata	
144	サトイモ	ミヤママムシグサ	<i>Arisaema</i> sp.	
145	サトイモ	ヒメザンソウ	<i>Symplocarpus nipponicus</i> Makino	
146	カヤツリグサ	オオタマツリスゲ	<i>Carex filipes</i> Franch. et Sav. var. <i>rouyana</i> (Franch.) Kükenth.	
147	カヤツリグサ	サツマスゲ	<i>Carex ligulata</i> Nees	
148	カヤツリグサ	ヤブスゲ	<i>Carex rochebrunii</i> Franch. et Sav.	
149	カヤツリグサ	ツルカミカワスゲ	<i>Carex sabyensis</i> Less. var. <i>rostrata</i> (Maxim.) Ohwi	
150	カヤツリグサ	ヒメアオガヤツリ	<i>Cyperus extremiorientalis</i> Ohwi	
151	カヤツリグサ	オオシロガヤツリ	<i>Cyperus nipponicus</i> Franch. et Sav. var. <i>spiralis</i> Ohwi	
152	カヤツリグサ	ノグサ	<i>Schoenus apogon</i> Roem. et Schult.	
153	ラン	イワチドリ	<i>Amitostigma keiskei</i> (Maxim.) Schltr.	EN
154	ラン	オオミヤマウズラ	<i>Goodyera</i> sp.	
155	ラン	ウスギムヨウラン	<i>Lecanorchis kiusiana</i> Tuyama	NT
156	ラン	ギボウシラン	<i>Liparis auriculata</i> Blume	EN
157	ラン	フウラン	<i>Neofinetia falcata</i> (Thunb.) Hu	VU
158	ラン	ウチョウラン	<i>Orchis graminifolia</i> (Reichb.f.) Tang et Wang	VU
159	ラン	トキシウ	<i>Pogonia japonica</i> Reichb.f.	NT
160	ラン	カシノキラン	<i>Saccolabium japonicum</i> Makino	VU

161	ラン	マツラン	<i>Saccolabium matsuran</i> Makino	VU
162	ラン	ムカデラン	<i>Sarcanthus scolopendrifolius</i> Makino	VU
163	ラン	イヌマムカゴ	<i>Tulotis iinumae</i> (Makino) H.Hara	EN

### 絶滅危惧 類 (VU)

No.	科名	和名	学名	国ランク
1	マツバラ	マツバラ	<i>Psilotum nudum</i> (L.) Beauv.	NT
2	ヒカゲノカズラ	アスヒカズラ	<i>Lycopodium complanatum</i> L.	
3	ヒカゲノカズラ	スギラン	<i>Lycopodium cryptomerinum</i> Maxim.	VU
4	ヒカゲノカズラ	ヤチスギラン	<i>Lycopodium inundatum</i> L.	
5	イワヒバ	ヒメクラマゴケ	<i>Selaginella heterostachys</i> Baker	
6	ハナヤスリ	ヒロハハナヤスリ	<i>Ophioglossum vulgatum</i> L.	
7	キジノオシダ	タカサゴキジノオ	<i>Plagiogyria adnata</i> (Blume) Bedd.	
8	コケシノブ	ミカワコケシノブ	<i>Hymenophyllum mikawanum</i> (Seriz.) Seriz.	EN
9	コバノイシカグマ	フモトカグマ	<i>Microlepia pseudo-strigosa</i> Makino	
10	シシラン	ナカミシシラン	<i>Vittaria fudzinoi</i> Makino	
11	チャセンシダ	ホウビシダ	<i>Asplenium honoense</i> Murakami et Hatanaka	
12	チャセンシダ	オクタマシダ	<i>Asplenium pseudo-wilfordii</i> Tagawa	VU
13	チャセンシダ	コタニワタリ	<i>Asplenium scolopendrium</i> L.	
14	オシダ	ヒロハヤブソテツ	<i>Cyrtomium macrophyllum</i> (Makino) Tagawa	
15	オシダ	サクライカグマ	<i>Dryopteris gymnophylla</i> (Baker) C.Chr.	
16	オシダ	ワカナシダ	<i>Dryopteris pycnopteroides</i> (Christ) C.Chr.	
17	オシダ	オウセベニシダ	<i>Dryopteris ryo-itoana</i> Sa.Kurata	
18	ヒメシダ	ツクシヤワラシダ	<i>Thelypteris hattorii</i> (H.Ito) Tagawa var. <i>nemoralis</i> (Ching) Sa.Kurata	
19	メシダ	ミドリワラビ	<i>Deparia viridifrons</i> (Makino) M.Kato	
20	メシダ	ウスバシケシダ	<i>Deparia</i> sp.	VU
21	メシダ	イワヤシダ	<i>Diplazium cavalierianum</i> (Christ) M.Kato	
22	メシダ	ウスバミヤマノコギリシダ	<i>Diplazium deciduum</i> N.Ohta et M.Takamiya	
23	メシダ	コクモウクジャク	<i>Diplazium virescens</i> Kunze	
24	メシダ	コガネシダ	<i>Woodсия macrochaena</i> Mett. ex Kuhn	
25	ウラボシ	イワオモダカ	<i>Pyrrosia hastata</i> (Thunb.) Ching	
26	マツ	ハリモミ	<i>Picea polita</i> (Sieb. et Zucc.) Carr.	
27	ヒノキ	ハイネズ	<i>Juniperus conferta</i> Parl.	
28	ヒノキ	クロベ	<i>Thuja standishii</i> (Gord.) Carr.	
29	カバノキ	ウダイカンバ	<i>Betula maximowicziana</i> Regel	
30	カバノキ	オノオレカンバ	<i>Betula schmidtii</i> Regel	
31	ブナ	シリブカガシ	<i>Lithocarpus glabra</i> (Thunb.) Nakai	
32	イラクサ	ヤナギイチゴ	<i>Debregeasia edulis</i> (Sieb. et Zucc.) Wedd.	
33	イラクサ	ミヤマイラクサ	<i>Laportea macrostachya</i> (Maxim.) Ohwi	
34	イラクサ	コケミズ	<i>Pilea peplodes</i> (Gaud.) Hook. et Arn.	
35	イラクサ	ミヤマミズ	<i>Pilea petiolaris</i> (Sieb. et Zucc.) Blume	
36	ヤマモガシ	ヤマモガシ	<i>Helicia cochinchinensis</i> Lour.	
37	タデ	オオツルイタドリ	<i>Fallopia dentato-alata</i> (Fr.Schm.) Holub	
38	タデ	ヌカボタデ	<i>Persicaria taquetii</i> (Lev.) Koidz.	VU
39	タデ	ホソバインスタデ	<i>Persicaria trigonocarpa</i> (Makino) Nakai	NT
40	ナデシコ	オオヤマフスマ	<i>Moehringia lateriflora</i> (L.) Fenzl	
41	ナデシコ	ワダソウ	<i>Pseudostellaria heterophylla</i> (Miq.) Pax	
42	アカザ	ハマアカザ	<i>Atriplex subcordata</i> Kitagawa	
43	モクレン	シデコブシ	<i>Magnolia tomentosa</i> Thunb.	NT
44	クスノキ	バリバリノキ	<i>Litsea acuminata</i> (Blume) Sa.Kurata	
45	キンボウゲ	ルイヨウショウマ	<i>Actaea asiatica</i> H.Hara	
46	キンボウゲ	ヒメイチゲ	<i>Anemone debilis</i> Fisch.	
47	キンボウゲ	レンゲショウマ	<i>Anemonopsis macrophylla</i> Sieb. et Zucc.	
48	キンボウゲ	キケンショウマ	<i>Cimicifuga acerina</i> (Sieb. et Zucc.) C.Tanaka var. <i>peltata</i> (Makino) H.Hara	
49	キンボウゲ	フジセンニンソウ	<i>Clematis fujisanensis</i> Hisauti et H.Hara	
50	キンボウゲ	カザグルマ	<i>Clematis patens</i> Morr.et Decne.	NT
51	キンボウゲ	クサボタン	<i>Clematis stans</i> Sieb. et Zucc.	
52	キンボウゲ	セツブソウ	<i>Shibateranthis pinnatifida</i> (Maxim.) Satake et Okuyama	NT
53	メギ	ルイヨウボタン	<i>Caulophyllum robustum</i> Maxim.	
54	ボタン	ヤマシャクヤク	<i>Paeonia japonica</i> (Makino) Miyabe et Takeda	NT
55	オトギリソウ	アゼオトギリ	<i>Hypericum oliganthum</i> Franch. et Sav.	EN
56	モウセンゴケ	イシモチソウ	<i>Drosera peltata</i> Smith var. <i>nipponica</i> (Masamune) Ohwi	NT
57	ケシ	ヤマブキソウ	<i>Chelidonium japonicum</i> Thunb.	
58	アブラナ	ハクサンハタザオ	<i>Arabis gemmifera</i> (Matsum.) Makino	
59	アブラナ	マルバタネツケバナ	<i>Cardamine</i> sp.	
60	マンサク	ダンドミズキ	<i>Corylopsis gotoana</i> Makino var.	NT
61	ユキノシタ	ミカワショウマ	<i>Astilbe thunbergii</i> (Sieb. et Zucc.) Miq. var. <i>okuyamae</i> (H.Hara) Ohwi	VU
62	ユキノシタ	ツルネコノメソウ	<i>Chrysosplenium flagelliferum</i> Fr.Schm.	

63	ユキノシタ	ピロードノリウツギ	<i>Hydrangea paniculata</i> Sieb. et Zucc. var. <i>velutina</i> Nakai	
64	ユキノシタ	ヤブサンザシ	<i>Ribes fasciculatum</i> Sieb. et Zucc.	
65	バラ	ヤマブキショウマ	<i>Aruncus dioicus</i> (Walt.) Fern. var. <i>tenuifolius</i> (Nakai) H.Hara	
66	バラ	イワキンバイ	<i>Potentilla dickinsii</i> Franch. et Sav.	
67	バラ	テリハキンバイ	<i>Potentilla riparia</i> Murata	
68	バラ	ハチジョウイチゴ	<i>Rubus ribisoides</i> Matsum.	
69	マメ	オオバヌスビトハギ	<i>Desmodium laxum</i> DC.	
70	マメ	サイカチ	<i>Gleditsia japonica</i> Miq.	
71	マメ	イタチササゲ	<i>Lathyrus davidii</i> Hance	
72	マメ	レンリソウ	<i>Lathyrus quinquerivius</i> (Miq.) Litv.	
73	マメ	イヌハギ	<i>Lespedeza tomentosa</i> (Thunb.) Sieb. ex Maxim.	NT
74	マメ	ヨツバハギ	<i>Vicia nipponica</i> Matsum.	
75	トウダイグサ	イワタイゲキ	<i>Euphorbia jolkinii</i> Boiss.	
76	トウダイグサ	シナノタイゲキ	<i>Euphorbia sinanensis</i> (Hurusawa) T.Kurosawa et H.Ohashi	
77	トウダイグサ	カンコノキ	<i>Glochidion obovatum</i> Sieb. et Zucc.	
78	カエデ	ホソエカエデ	<i>Acer capillipes</i> Maxim.	
79	カエデ	カラコギカエデ	<i>Acer ginnala</i> Maxim.	
80	カエデ	ハウチワカエデ	<i>Acer japonicum</i> Thunb.	
81	アワブキ	ヤマビワ	<i>Meliosma rigida</i> Sieb. et Zucc.	
82	ツリフネソウ	エンシュウツリフネ	<i>Impatiens hypophylla</i> Makino var. <i>microhypophylla</i> (Nakai) H.Hara	VU
83	モチノキ	ナナミノキ	<i>Ilex chinensis</i> Sims.	
84	モチノキ	ミヤマウメモドキ	<i>Ilex nipponica</i> Makino	
85	ツゲ	ツゲ	<i>Buxus microphylla</i> Sieb. et Zucc. var. <i>japonica</i> (Muell.Arg. ex Miq.) Rehd. et Wils.	
86	ホルトノキ	ホルトノキ	<i>Elaeocarpus sylvestris</i> (Lour.) Poir. var. <i>ellipticus</i> (Thunb.) H.Hara	
87	アオイ	ハマボウ	<i>Hibiscus hamabo</i> Sieb. et Zucc.	
88	ジンチョウゲ	キガンビ	<i>Wikstroemia trichotoma</i> (Thunb.) Makino	
89	スマレ	コタチツボスマレ	<i>Viola grypoceras</i> A.Gray var. <i>exilis</i> (Miq.) Nakai	
90	ミソハギ	ミスキカシグサ	<i>Rotala littorea</i> (Miq.) Nakai	VU
91	アリノトウグサ	オグラノフサモ	<i>Myriophyllum oguraense</i> Miki	VU
92	セリ	ノダケモドキ	<i>Angelica hakonensis</i> Maxim. var. <i>nikoensis</i> (Yabe) H.Hara	
93	セリ	フキヤミツバ	<i>Sanicula tuberculata</i> Maxim.	EN
94	イワウメ	オオイワカガミ	<i>Schizocodon soldanelloides</i> Sieb. et Zucc. var. <i>magnus</i> (Makino) H.Hara	
95	ツツジ	ヒロハドウダンツツジ	<i>Enkianthus perulatus</i> (Miq.) Schneid. form. <i>japonicus</i> (Hook.f.) Kitam.	
96	ツツジ	ハナヒリノキ	<i>Leucothoe grayana</i> Maxim.	
97	ツツジ	ホンシャクナゲ	<i>Rhododendron degronianum</i> Carr. var. <i>hondoense</i> (Nakai) H.Hara	
98	ツツジ	ホソバシャクナゲ	<i>Rhododendron makinoi</i> Tagg. ex Nakai	VU
99	ハイノキ	カンザブドウノキ	<i>Symplocos theophrastaefolia</i> Sieb. et Zucc.	
100	モクセイ	ミヤマアオダモ	<i>Fraxinus apertisquamifera</i> H.Hara	
101	リンドウ	コケリンドウ	<i>Gentiana squarrosa</i> Ledeb.	
102	リンドウ	ホソバツルリンドウ	<i>Pterygocalyx volubilis</i> Maxim.	VU
103	リンドウ	ムラサキセンブリ	<i>Swertia pseudochinensis</i> H.Hara	NT
104	ガガイモ	フナバラソウ	<i>Cynanchum atratum</i> Bunge	VU
105	ガガイモ	シタキシソウ	<i>Stephanotis lutchuensis</i> Koidz. var. <i>japonica</i> (Makino) Hatus.	
106	ムラサキ	ホタルカズラ	<i>Lithospermum zollingeri</i> DC.	
107	シソ	ジュウニヒトエ	<i>Ajuga nipponensis</i> Makino	
108	シソ	ミズネコノオ	<i>Eusteralis stellata</i> (Lour.) Murata	NT
109	シソ	ミズトラノオ	<i>Eusteralis yatabeana</i> (Makino) Murata	VU
110	シソ	ヤマジソ	<i>Mosla japonica</i> (Benth.) Maxim.	NT
111	シソ	ダンドタムラソウ	<i>Salvia lutescens</i> Koidz. var. <i>stolonifera</i> Murata	
112	ナス	アオホオズキ	<i>Physalisstrum savatieri</i> (Makino) Makino	VU
113	ゴマノハグサ	ゴマクサ	<i>Centranthera chevalieri</i> Bonati	VU
114	ゴマノハグサ	ヒロハスズメノトウガラシ	<i>Lindernia antipoda</i> (L.) Alston var. <i>verbenaefolia</i> (Colsm.) H.Hara	
115	ゴマノハグサ	ヤマトラノオ	<i>Pseudolysimachion rotundum</i> (Nakai) Yamazaki var. <i>subintegrum</i> (Nakai) Yamazaki	
116	ゴマノハグサ	ヒヨクソウ	<i>Veronica melissaefolia</i> Poir.	
117	ハマウツボ	キヨスミウツボ	<i>Phacellanthus tubiflorus</i> Sieb. et Zucc.	
118	タヌキモ	ノタヌキモ	<i>Utricularia aurea</i> Lour.	VU
119	タヌキモ	ヒメタヌキモ	<i>Utricularia minor</i> L.	NT
120	スイカズラ	キダチニンドウ	<i>Lonicera hypoglauca</i> Miq.	
121	スイカズラ	ハクサンボク	<i>Viburnum japonicum</i> (Thunb.) Spreng.	
122	マツムシソウ	ナベナ	<i>Dipsacus japonicus</i> Miq.	
123	キク	ヒメシオン	<i>Aster fastigiatus</i> Fisch.	
124	キク	アキノハハコグサ	<i>Gnaphalium hypoleucum</i> DC.	VU
125	キク	ヤナギノギク	<i>Heteropappus hispidus</i> (Thunb.) Less. subsp. <i>leptocladus</i> (Makino) Kitam.	VU
126	キク	カセンソウ	<i>Inula salicina</i> L. var. <i>asiatica</i> Kitam.	
127	キク	キクアザミ	<i>Saussurea ussuriensis</i> Maxim.	
128	キク	ツクシメナモミ	<i>Siegesbeckia orientalis</i> L.	
129	キク	アオヤギバナ	<i>Solidago yokusaiana</i> Makino	

130	トチカガミ	スブタ	<i>Blyxa echinosperma</i> (Clarke) Hook.f.	VU
131	トチカガミ	コウガイモ	<i>Vallisneria denseserrulata</i> (Makino) Makino	
132	ヒルムシロ	ササバモ	<i>Potamogeton malaianus</i> Miq.	
133	ヒルムシロ	オヒルムシロ	<i>Potamogeton natans</i> L.	
134	ヒルムシロ	ツツイトモ	<i>Potamogeton panormitanus</i> Biv.	VU
135	イバラモ	サガミドリゲモ	<i>Najas foveolata</i> A.Br.	VU
136	イバラモ	イバラモ	<i>Najas marina</i> L.	
137	ホンゴウソウ	ホンゴウソウ	<i>Andruris japonica</i> (Makino) Giesen	VU
138	ユリ	キイトラッキョウ	<i>Allium virgunculae</i> F.Maek. et Kitam. var. <i>kiiense</i> Murata	VU
139	ユリ	コフキイワギボウシ	<i>Hosta longipes</i> (Franch. et Sav.) Matsum. var.	
140	ユリ	ワニグチソウ	<i>Polygonatum involucreatum</i> (Franch. et Sav.) Maxim.	
141	ユリ	ハナゼキショウ	<i>Tofieldia nuda</i> Maxim.	
142	ヤマノイモ	ウチワドコロ	<i>Dioscorea nipponica</i> Makino	
143	アヤメ	カキツバタ	<i>Iris laevigata</i> Fisch.	NT
144	ヒナノシャクジョウ	ヒナノシャクジョウ	<i>Burmanna championii</i> Thwait.	
145	ホシクサ	シラタマホシクサ	<i>Eriocaulon nudicuspe</i> Maxim.	VU
146	ホシクサ	クロホシクサ	<i>Eriocaulon parvum</i> Koernicke	VU
147	イネ	ヒナザサ	<i>Coelachne japonica</i> Hack.	
148	イネ	アラゲメヒシバ	<i>Digitaria violascens</i> Link var. <i>lasiophylla</i> (Honda) Tuyama	
149	イネ	イトスズメガヤ	<i>Eragrostis bulbifera</i> Steud.	
150	イネ	コゴメカゼクサ	<i>Eragrostis japonica</i> (Thunb.) Trin.	
151	イネ	ウンヌケモドキ	<i>Eulalia quadrinervis</i> (Hack.) O.Kuntze	NT
152	イネ	ヤマトボシガラ	<i>Festuca japonica</i> Makino	
153	イネ	カモノハシ	<i>Ischaemum aristatum</i> L. var. <i>glaucum</i> (Honda) T.Koyama	
154	イネ	イブキヌカボ	<i>Milium effusum</i> L.	
155	イネ	ヨコハマダケ	<i>Pleioblastus matsunoi</i> Nakai	
156	イネ	シダミコザサ	<i>Sasa samaniana</i> Nakai var. <i>yoshinoi</i> S.Suzuki form. <i>hidejiroana</i> (Koidz.) S.Suzuki	
157	イネ	ナリヒラダケ	<i>Semiarundinaria fastuosa</i> (Mitford) Makino	
158	イネ	ハマエノコロ	<i>Setaria viridis</i> (L.) Beauv. var. <i>pachystachys</i> (Franch. et Sav.) Makino et Nemoto	
159	イネ	ヒゲシバ	<i>Sporobolus japonicus</i> (Steud.) Maxim.	
160	イネ	ヒロハノハネガヤ	<i>Stipa coreana</i> Honda var. <i>kengii</i> Ohwi	
161	サトイモ	ホソバテンナンショウ	<i>Arisaema angustatum</i> Franch. et Sav.	
162	サトイモ	ムロウマムシグサ	<i>Arisaema kishidae</i> Makino ex Nakai	
163	サトイモ	オオマムシグサ	<i>Arisaema takedae</i> Makino	
164	ミクリ	ミクリ	<i>Sparganium erectum</i> L.	NT
165	カヤツリグサ	ミノボロスゲ	<i>Carex albata</i> Boott	
166	カヤツリグサ	アイズスゲ	<i>Carex hondoensis</i> Ohwi	
167	カヤツリグサ	アオヒエスゲ	<i>Carex insanae</i> Koidz. var. <i>subdita</i> (Ohwi) Ohwi	
168	カヤツリグサ	センダイスゲ	<i>Carex lenta</i> D.Don var. <i>sendaica</i> (Franch.) T. Koyama	
169	カヤツリグサ	ミタケスゲ	<i>Carex michauxiana</i> Bockl. var. <i>asiatica</i> (Hult.) Ohwi	
170	カヤツリグサ	ヒゲスゲ	<i>Carex oahuensis</i> C.A.Mey. var. <i>robusta</i> Franch. et Sav.	
171	カヤツリグサ	タカネマスクサ	<i>Carex planata</i> Franch. et Sav.	
172	カヤツリグサ	ニシノホンモンジスゲ	<i>Carex stenostachys</i> Franch. et Sav.	
173	カヤツリグサ	オオカワズスゲ	<i>Carex stipata</i> Muhlenb.	
174	カヤツリグサ	ヒメガヤツリ	<i>Cyperus tenuispica</i> Steud.	
175	カヤツリグサ	セイタカハリイ	<i>Eleocharis attenuata</i> (Franch. et Sav.) Palla	
176	カヤツリグサ	マシカクイ	<i>Eleocharis tetraquetra</i> Nees	
177	カヤツリグサ	ピロードテンツキ	<i>Fimbristylis sericea</i> (Poir.) R.Br.	
178	カヤツリグサ	トネテンツキ	<i>Fimbristylis stauntonii</i> Debeaux et Franch. var. <i>tonensis</i> (Makino) Ohwi	VU
179	カヤツリグサ	トラノハナヒゲ	<i>Rhynchospora brownii</i> Roem. et Schult.	
180	カヤツリグサ	オオイヌノハナヒゲ	<i>Rhynchospora fauriei</i> Franch.	
181	カヤツリグサ	シズイ	<i>Scirpus nipponicus</i> Makino	
182	カヤツリグサ	ミカワシンジュガヤ	<i>Scleria mikawana</i> Makino	VU
183	ラン	ナツエビネ	<i>Calanthe reflexa</i> Maxim.	VU
184	ラン	ユウシュンラン	<i>Cephalanthera erecta</i> (Thunb.) Blume var. <i>subaphylla</i> Ohwi	VU
185	ラン	クマガイソウ	<i>Cypripedium japonicum</i> Thunb.	VU
186	ラン	コイチヨウラン	<i>Ephippianthus schmidtii</i> Reichb.f.	
187	ラン	タシロラン	<i>Epipogium roseum</i> (D.Don) Lindl.	NT
188	ラン	アキザキヤツシロラン	<i>Gastrodia verrucosa</i> Blume	
189	ラン	シュスラン	<i>Goodyera velutina</i> Maxim.	
190	ラン	ノビネチドリ	<i>Gymnadenia camtschatica</i> (Cham.) Miyabe et Kudo	
191	ラン	サギソウ	<i>Habenaria radiata</i> (Thunb.) Spreng.	NT
192	ラン	ミズトンボ	<i>Habenaria sagittifera</i> Reichb.f.	VU
193	ラン	ホクリクムヨウラン	<i>Lecanorchis hokurikuensis</i> Masamune	
194	ラン	クロムヨウラン	<i>Lecanorchis nigricans</i> Honda	
195	ラン	セイタカスズムシソウ	<i>Liparis japonica</i> (Miq.) Maxim.	
196	ラン	コフタバラン	<i>Listera cordata</i> (L.) R.Br. var. <i>japonica</i> H.Hara	
197	ラン	ニラバラン	<i>Microtis unifolia</i> (Forst.) Reichb.f.	
198	ラン	ミズチドリ	<i>Platanthera hologlottis</i> Maxim.	

199	ラン	ヤマサギソウ	<i>Platanthera mandarinorum</i> Reichb.f. var. <i>brachycentron</i> (Franch. et Sav.) Koidz.
200	ラン	ヤマトキシソウ	<i>Pogonia minor</i> (Makino) Makino

準絶滅危惧 (NT)

No.	科名	和名	学名	国ランク
1	ミズニラ	ミズニラ	<i>Isoetes japonica</i> A.Br.	NT
2	トクサ	イヌスギナ	<i>Equisetum palustre</i> L.	
3	ハナヤスリ	ナガホノナツノハナワラビ	<i>Botrychium strictum</i> Underw.	
4	キジノオシダ	ヤマソテツ	<i>Plagiogyria matsumureana</i> Makino	
5	コバノイシカグマ	イシカグマ	<i>Microlepia strigosa</i> (Thunb.) Presl	
6	ホングウシダ	ハマホラシノブ	<i>Sphenomeris biflora</i> (Kaulf.) Tagawa	
7	イノモトソウ	ナチシダ	<i>Pteris wallichiana</i> Ag.	
8	オシダ	ツクシイワヘゴ	<i>Dryopteris commixta</i> Tagawa	
9	オシダ	ヌカイタチシダ	<i>Dryopteris gymnosora</i> (Makino) C.Chr.	
10	オシダ	ナンカイイタチシダ	<i>Dryopteris varia</i> (L.) O.Kuntze	
11	ヒメシダ	ミヤマワラビ	<i>Thelypteris phegopteris</i> (L.) Slosson ex Rydb.	
12	メシダ	ミヤマシケシダ	<i>Deparia pycnosora</i> (Christ) M.Kato	
13	ウラボシ	ホテイシダ	<i>Lepisorus annuifrons</i> (Makino) Ching	
14	ウラボシ	コウラボシ	<i>Lepisorus uchiyamae</i> (Makino) H.Ito	
15	ヒメウラボシ	オオクボシダ	<i>Xiphopteris okuboii</i> (Yatabe) Copel.	
16	マツ	ウラジロモミ	<i>Abies homolepis</i> Sieb. et Zucc.	
17	コウヤマキ	コウヤマキ	<i>Sciadopitys verticillata</i> (Thunb.) Sieb. et Zucc.	
18	ヒノキ	ネズミサシ	<i>Juniperus rigida</i> Sieb. et Zucc.	
19	ヤナギ	キヌヤナギ	<i>Salix kinuyanagi</i> Kimura	
20	ブナ	フモトミズナラ	<i>Quercus crispula</i> Blume var. <i>mongolicoides</i> (H.Ohba) Seriz.	
21	タデ	サイコクヌカボ	<i>Persicaria foliosa</i> (H.Lindb.) Kitagawa var. <i>nikaii</i> (Makino) H.Hara	VU
22	タデ	ナガバノウナギツカミ	<i>Persicaria hastato-sagittata</i> (Makino) Nakai	NT
23	タデ	コミソソバ	<i>Persicaria mikawana</i> Hanai et Seriz.	
24	タデ	オオミソソバ	<i>Persicaria thunbergii</i> (Sieb. et Zucc.) H.Gross subsp. <i>hastatotriloba</i> (Meisn.) Sugim.	
25	タデ	トヨボタニソバ	<i>Persicaria</i> sp.	
26	タデ	ヒメボントクタデ	<i>Persicaria</i> sp.	
27	アカザ	マルバアカザ	<i>Chenopodium acuminatum</i> Willd.	
28	アカザ	カワラアカザ	<i>Chenopodium virgatum</i> Thunb.	
29	アカザ	イソホウキギ	<i>Kochia littorea</i> (Makino) Makino	
30	ヒユ	ハチジョウイノコツチ	<i>Achyranthes japonica</i> (Miq.) Nakai var. <i>hachijoensis</i> Honda	
31	キンボウゲ	アズマイチゲ	<i>Anemone raddeana</i> Regel	
32	キンボウゲ	ミスミソウ	<i>Hepatica nobilis</i> Schreber var. <i>japonica</i> Nakai	NT
33	キンボウゲ	スハマソウ	<i>Hepatica nobilis</i> Schreber var. <i>japonica</i> Nakai form. <i>variegata</i> (Makino) Kitam.	NT
34	キンボウゲ	シギンカラマツ	<i>Thalictrum actaeifolium</i> Sieb. et Zucc.	
35	メギ	ヘビノボラス	<i>Berberis sieboldii</i> Miq.	
36	メギ	イカリソウ	<i>Epimedium grandiflorum</i> Morr.	
37	アブラナ	ミズタガラシ	<i>Cardamine lyrata</i> Bunge	
38	ベンケイソウ	ミツバベンケイソウ	<i>Hylotelephium verticillatum</i> (L.) H.Ohba	
39	ベンケイソウ	ツメレンゲ	<i>Orostachys japonicus</i> (Maxim.) Berger	NT
40	ユキノシタ	キバナハナネコノメ	<i>Chrysosplenium album</i> Maxim. var. <i>flavum</i> H.Hara	NT
41	ユキノシタ	タコノアシ	<i>Penthorum chinense</i> Pursh	NT
42	ユキノシタ	バイカアマチャ	<i>Platycrater arguta</i> Sieb. et Zucc.	
43	ユキノシタ	ナメライモンジソウ	<i>Saxifraga fortunei</i> Hook.f. var. <i>sumoensis</i> Nakai	
44	バラ	カワラサイコ	<i>Potentilla chinensis</i> Ser.	
45	バラ	ミヤマザクラ	<i>Prunus maximowiczii</i> Rupr.	
46	バラ	バクチノキ	<i>Prunus zippeliana</i> Miq.	
47	マメ	ミソナオシ	<i>Desmodium caudatum</i> (Thunb.) DC.	
48	マメ	オオバクサフジ	<i>Vicia pseudo-orobus</i> Fisch. et Mey.	
49	カタバミ	コミヤマカタバミ	<i>Oxalis acetosella</i> L.	
50	カタバミ	ミヤマカタバミ	<i>Oxalis griffithii</i> Edgew. et Hook.f.	
51	カエデ	カジカエデ	<i>Acer diabolicum</i> Blume ex Koch	
52	ニシキギ	イワウメヅル	<i>Celastrus flagellaris</i> Rupr.	
53	スミレ	サクラスミレ	<i>Viola hirtipes</i> S.Moore	
54	ヒシ	オニビシ	<i>Trapa natans</i> L. var. <i>rubeola</i> Makino	
55	アリノトウグサ	タチモ	<i>Myriophyllum ussuriense</i> (Regel) Maxim.	NT
56	セリ	アシタバ	<i>Angelica keiskei</i> (Miq.) Koidz.	
57	セリ	ハナウド	<i>Heracleum moellendorffii</i> Hance	
58	セリ	イブキボウフウ	<i>Libanotis coreana</i> (Wolff) Kitagawa	
59	イチヤクソウ	シャクジョウソウ	<i>Monotropa hypopitys</i> L.	
60	ツツジ	サラサドウダン	<i>Enkianthus campanulatus</i> (Miq.) Nichols.	
61	サクラソウ	クリンソウ	<i>Primula japonica</i> A.Gray	
62	イソマツ	ハマサジ	<i>Limonium tetragonum</i> (Thunb.) A.A.Bullock	NT

63	モクセイ	ハシドイ	<i>Syringa reticulata</i> (Blume) H.Hara	
64	リンドウ	イヌセンブリ	<i>Swertia diluta</i> (Turcz.) Benth. et Hook.f. var. <i>tosaensis</i> (Makino) H.Hara	VU
65	ミツガシワ	ガガブタ	<i>Nymphoides indica</i> (L.) O.Kuntze	NT
66	ガガイモ	クサナギオゴケ	<i>Cynanchum katoi</i> Ohwi	VU
67	ガガイモ	コイケマ	<i>Cynanchum wilfordii</i> (Maxim.) Hemsl.	
68	アカネ	キクムグラ	<i>Galium kikumugura</i> Ohwi	
69	アカネ	ルリミノキ	<i>Lasianthus japonicus</i> Miq.	
70	ムラサキ	ミズタヒラコ	<i>Trigonotis brevipes</i> (Maxim.) Maxim.	
71	クマツツラ	イワダレソウ	<i>Lippia nodiflora</i> (L.) L.C.Richard et Michx.	
72	シソ	タニジャコウソウ	<i>Chelonopsis longipes</i> Makino	
73	シソ	シロネ	<i>Lycopus lucidus</i> Turcz.	
74	シソ	シマジタムラソウ	<i>Salvia isensis</i> Nakai ex H.Hara	VU
75	ナス	ヤマホオズキ	<i>Physalis chamaesarachoides</i> Makino	EN
76	ゴマノハグサ	マルバノサウトウガラシ	<i>Deinostema adenocaulum</i> (Maxim.) Yamazaki	VU
77	ゴマノハグサ	オオアブノメ	<i>Gratiola japonica</i> Miq.	VU
78	ゴマノハグサ	スズメノハコベ	<i>Microcarpaea minima</i> (Koenig) Merrill	VU
79	ゴマノハグサ	ヒキヨモギ	<i>Siphonostegia chinensis</i> Benth.	
80	タヌキモ	ムラサキミミカキグサ	<i>Utricularia uliginosa</i> Vahl	NT
81	スイカズラ	ベニバナツクバネウツギ	<i>Abelia spathulata</i> Sieb. et Zucc. var. <i>sanguinea</i> Makino	
82	マツムシソウ	マツムシソウ	<i>Scabiosa japonica</i> Miq.	
83	キキョウ	ソバナ	<i>Adenophora remotiflora</i> (Sieb. et Zucc.) Miq.	
84	キキョウ	イワシャジン	<i>Adenophora takedae</i> Makino	
85	キキョウ	キキョウ	<i>Platycodon grandiflorum</i> (Jacq.) A.DC.	VU
86	キク	イズハハコ	<i>Conyza japonica</i> (Thunb.) Less.	VU
87	キク	サケバヒヨドリ	<i>Eupatorium laciniatum</i> Kitam.	
88	キク	ミスギク	<i>Inula ciliaris</i> (Miq.) Maxim.	
89	キク	ホクチアザミ	<i>Saussurea gracilis</i> Maxim.	
90	キク	ヤマザタンポポ	<i>Taraxacum denudatum</i> H.Koidz. var. <i>arakii</i> (Kitam.) Seriz.	NT
91	キク	ネコノシタ	<i>Wedelia prostrata</i> (Hook. et Arn.) Hemsl.	
92	アマモ	エビアマモ	<i>Phyllospadix japonica</i> Makino	NT
93	シバナ	シバナ	<i>Triglochin maritimum</i> L.	NT
94	ヒルムシロ	ヒルムシロ	<i>Potamogeton distinctus</i> A.Bennett	
95	ヒルムシロ	イトモ	<i>Potamogeton pusillus</i> L.	NT
96	ヒルムシロ	カワツルモ	<i>Ruppia maritima</i> L.	NT
97	イバラモ	オオトリゲモ	<i>Najas oguraensis</i> Miki	
98	ユリ	ヒメニラ	<i>Allium monanthum</i> Maxim.	
99	ユリ	マイヅルソウ	<i>Maianthemum dilatatum</i> (Wood) Nels. et Macbr.	
100	ユリ	イワシヨウブ	<i>Tofieldia japonica</i> Miq.	
101	ユリ	タマガワホトギス	<i>Tricyrtis latifolia</i> Maxim.	
102	ヤマノイモ	キクバドコロ	<i>Dioscorea septemloba</i> Thunb.	
103	アヤメ	ヒオウギ	<i>Belamcanda chinensis</i> (L.) DC.	
104	ホシクサ	ツクシクロイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon kiusianum</i> Maxim.	VU
105	イネ	ウンヌケ	<i>Eularia speciosa</i> (Debeaux) O.Kuntze	NT
106	イネ	トウササクサ	<i>Lophatherum sinense</i> Rendle	
107	イネ	ウキシバ	<i>Pseudoraphis ukishiba</i> Ohwi	
108	イネ	オニシバ	<i>Zoysia macrostachya</i> Franch. et Sav.	
109	ミクリ	ヤマトミクリ	<i>Sparganium fallax</i> Graebn.	NT
110	カヤツリグサ	イトテンツキ	<i>Bulbostylis densa</i> (Wall.) Hand.-Mazz. var. <i>capitata</i> (Miq.) Ohwi	VU
111	カヤツリグサ	チャシバズグサ	<i>Carex caryophyllea</i> Latour. var. <i>microtricha</i> (Franch.) Kükenth.	
112	カヤツリグサ	キノクニスグサ	<i>Carex matsumurae</i> Franch.	NT
113	カヤツリグサ	ホソバカンスグサ	<i>Carex morrowii</i> Boott var. <i>temnolepis</i> (Franch.) Ohwi	
114	カヤツリグサ	キシウナキリスグサ	<i>Carex nachiana</i> Ohwi	VU
115	カヤツリグサ	ジングウスグサ	<i>Carex sacrosancta</i> Honda	NT
116	カヤツリグサ	ヌマガヤツリ	<i>Cyperus glomeratus</i> L.	
117	ラン	シラン	<i>Bletilla striata</i> (Thunb.) Reichb.f.	NT
118	ラン	ミヤマムギラン	<i>Bulbophyllum japonicum</i> (Makino) Makino	NT
119	ラン	エビネ	<i>Calanthe discolor</i> Lindl.	NT
120	ラン	キンラン	<i>Cephalanthera falcata</i> (Thunb.) Blume	VU
121	ラン	ササバギンラン	<i>Cephalanthera longibracteata</i> Blume	
122	ラン	イチヨウラン	<i>Dactyloctenium aegyptium</i> L.	
123	ラン	セッコク	<i>Dendrobium moniliforme</i> (L.) Sw.	
124	ラン	オオヤマサギソウ	<i>Platanthera sachalinensis</i> Fr. Schm.	

## 国リスト

No.	科名	和名	学名	国ランク
1	カバノキ	サクラバハンノキ	<i>Alnus trabeculosa</i> Hand.-Mazz.	NT
2	タデ	コギシギシ	<i>Rumex nipponicus</i> Franch. et Sav.	VU
3	クスノキ	ニッケイ	<i>Cinnamomum okinawense</i> Hatus.	NT
4	アブラナ	コイヌガラシ	<i>Rorippa cantoniensis</i> (Lour.) Ohwi	NT
5	ミソハギ	ミズマツバ	<i>Rotula pusilla</i> Tulasne	VU

6	アカバナ	ウスゲチヨウジタデ	<i>Ludwigia greatrexii</i> H.Hara	NT
7	ガガイモ	スズサイコ	<i>Cynanchum paniculatum</i> (Bunge) Kitagawa	NT
8	シソ	タチキランソウ	<i>Ajuga makinoi</i> Nakai	NT
9	シソ	マネキグサ	<i>Lamium ambiguum</i> (Makino) Ohwi	NT
10	シソ	ミゾコウジュ	<i>Salvia plebeia</i> R.Br.	NT
11	ゴマノハグサ	オオヒキヨモギ	<i>Siphonostegia laeta</i> S.Moore	VU
12	ゴマノハグサ	イヌノフグリ	<i>Veronica didyma</i> Tenore var. <i>lilacina</i> (H.Hara) Yamazaki	VU
13	ゴマノハグサ	カウヂシャ	<i>Veronica undulata</i> Wall.	NT
14	タヌキモ	イヌタヌキモ	<i>Utricularia australis</i> R.Br.	NT
15	キク	ウラギク	<i>Aster tripolium</i> L.	VU
16	キク	ワタムキアザミ	<i>Cirsium tashiroi</i> Kitam.	VU
17	オモダカ	アギナシ	<i>Sagittaria aginashi</i> (Makino) Makino	NT
18	トチカガミ	ミズオオバコ	<i>Ottelia alismoides</i> (L.) Pers.	VU
19	ヒルムシロ	リュウノヒゲモ	<i>Potamogeton pectinatus</i> L.	NT
20	イバラモ	イトトリゲモ	<i>Najas japonica</i> Nakai	NT
21	イネ	ヒメコヌカグサ	<i>Agrostis valvata</i> Steud.	NT
22	ミクリ	ナガエミクリ	<i>Sparganium japonicum</i> Rothert	NT
23	カヤツリグサ	チャボイ	<i>Eleocharis parvula</i> (Roem. et Schult.) Link	VU
24	ラン	マメヅタラン	<i>Bulbophyllum drymoglossum</i> Maxim.	NT
25	ラン	ムギラン	<i>Bulbophyllum inconspicuum</i> Maxim.	NT

## 愛知県維管束植物レッドリストの変更点

本書に掲載した維管束植物レッドリスト（見直し後）と「レッドデータブックあいち 2001 植物編」に掲載した維管束植物レッドリスト（見直し前）の新旧対照表を以下に示した。なお、ランク変更のなかった種については、記載を一部省略した。

	見直し前のランク		CR	EN	VU	NT	リスト外*1	未評価*2	種数
見直し後のランク	EX	オリヅルシダ ミヤマシダ トサオトギリ タチスズンソウ ハマビシ 等、31種		ペンケイトウ ヒロハツリバナ タチコゴメグサ コタスキモ アヲボスゲ				ハマナツメ オオナンバンギセル カニコモリ イトクズモ ツクシカンガレイ ムカゴソウ	42
	CR	ヒモラン ヒメナエ ザクライトウ ヌマクロボスゲ	ヤチヤナギ ヒロハマツナ コバノリュウキンカ タマカラマツ オニバス オグラコウホネ ナガバノイシモチソウ 等、41種	ニコウシダ アカウキクサ キリガワシシウド コバナガクハシソウ ヤマジノギク ミズアオイ ヒトツバテンナンショウ ナガバテンツキ				ミヤコヒメ シロバナナガバノイシモチソウ イトギク ミスバシヨウ ホザキマスカサ	58
	EN	カミガモシダ ピロコヒラフジ トウサワトクノオ アサザ ハマネナシカスラ スナヒキソウ コナミキ ハマウツボ マルミスブタ ムサシモ ウスギムヨウラン	エリノヒククラマゴケ チチフホラゴケ タキミシダ ヒノキシダ タカサゴシダ ホソノデ オオバショリマ ミヤマメシダ イヨクジャク ニセコモウクジャク エビシダ クラガリシダ ビャクシン イチイ ナラガシワ コバノチヨウセンエノキ カシノキ ミヤマツツリモチ ナガバノヤノネグサ ヒメタデ ノダイオウ 等、120種	ヨコグマヒメワラビ テツホシダ デンシソウ サンショウモ オオアカウキクサ ミドリアカザ ヒメコウホネ シラヒゲソウ オオダイコンソウ シバハギ イワカガミ ベニバナイチヤクソウ トネリコ シオガマギク コウグイカグラ ミヤマシグレ キジカクシ エンレイソウ ミカウバイゲイトウ ミスアカモジ ヒメザゼンソウ オオタマツリスゲ	トチカガミ ノグサ		シロハコギリシダ シマシロヤマシダ ヌカボシツリハラン コハリノマツモ ミカワウレレン オナモミ ヒメアヲガヤツリ オオミヤマウスラ	163	
	VU	ホンゴウソウ	クロムヨウラン	ツクシヤウラシダ アゼオトギリ ヤマビロ キガンビ カンザブドウノキ ミスネノオ ゴマクサ ヒメタスキモ ヒメシオン コウガイモ オヒルムシロ イハラモ イトススメガヤ ミリ ミカワシシユガヤ 等、165種	マツバラン スギラン ヤチスギラン ヒメクラマゴケ ヒロハハチヤスリ タカサゴシノオ ミカウコクシノブ フモトカグマ ナカミシシラン ホウビシダ コタニワリ ヒロハヤブソウ ワカナシダ オウセヘニシダ 等、99種	アスヒカズラ サクライカグマ レンゲシヨウマ ヤブサンザシ ホルタルカスラ イブキスカボ	オクタマシダ テリハキンバイ ヨツバハギ ヒロハスズメノトウガラシ ノタスキモ ツクシメナモミ ツツイトモ コフキイワキボウシ ナリヒラダケ ヒメガヤツリ タンラン アキザキヤツシロラン	200	
NT			ミヤウラビ オオクボシダ ウラジロモミ イワウメツル アシタバ コイケマ キクムグラ イトモ オオトリゲモ ウンスケ キノクニスゲ ヌマガヤツリ エビネ	ミスニラ イヌスギナ ナガホノナツハナウラビ ヤマソテツ イシカグマ ナチシダ ツクシイワヘゴ ヌカイトチシダ ナンカイイチシダ ミヤマシケシダ ホテイシダ コウラボシ 等、21種	ムラサキミカキグサ ヤマザトタンボウ	ハマホラシノブ ナガバノウナギツカミ コムソノバ オオミソノバ トヨボタニソバ ヒメボトクダデ ハチジョウイノコツチ ヒルムシロ ツクシクロイヌノヒゲ ホリハカンスゲ	124		
固リスト*3						コギシギシ リュウノヒゲモ	サクラバハノノキ ニッケイ コイヌガラシ 等、21種	ミスオオバコ チャボイ	25
ランク外*4						トキワツリノオ シラカンバ マツモ オオフユイチゴ ハマゼリ ミヤマヤブニンジン ウスユキムグラ セキショウモ コアマモ クロヤツシロラン			10
評価外		マツナ キムヨウラン	スルガスゲ ヒロハノコジュズスゲ	クロボシソウ					5
種数	36	65	150	201	119	23	43	627	

\*1 リスト外：環境省レッドデータブックに記載されているが、「レッドデータブックあいち2001植物編」においてEX、CR、EN、VU、NTのいずれのランクにも該当しないと評価された種。  
 \*2 未評価：「レッドデータブックあいち2001植物編」において評価対象とされなかった種。  
 \*3 固リスト：環境省レッドリスト(2007年版)に記載されているが、愛知県においてEX、CR、EN、VU、NTのいずれのランクにも該当しないと評価された種。  
 \*4 ランク外：「レッドデータブックあいち2001植物編」掲載種のうち、今回の見直しによって、EX、CR、EN、VU、NT、固リストのいずれのランクにも該当しないと評価された種。  
 \*5 評価外：「レッドデータブックあいち2001植物編」掲載種のうち、分類学的な知見の進歩等により、今回の見直しにおいて評価の対象外とされた種。

### (3) コケ植物

#### 愛知県におけるコケ植物の概況

愛知県に生育するコケ植物（蘚類と苔類）の種数は、蘚類が約 350 種、苔類が 153 種（山田, 2002）である。

愛知県は緯度から見て日本列島のほぼ中央に位置し、南は太平洋に面し、北は日本の屋根ともいふべき中部高山地帯を背負っている。したがって愛知県におけるコケ植物の自然分布は大観すると、南方から黒潮沿岸を伝って北上する南方系（暖地系、亜熱帯系、熱帯系）と北方高地から南下する北方系（寒地系、北周極系）とが交錯している地域である。

また、一方、日本列島はかつて大陸と地続きであったことと関連して、東アジアまたは広く欧亜大陸との共通種も含んでいる。これらの交錯関係をさらに細かく分析してみると、コケ植物の分布は年間気温と降水量と絡んでいることが判る。愛知県の地勢は南に岡崎・豊橋平野、西に濃尾平野があり、北及び東北方向に次第に高度を増し、東北隅は長野県に接し、いわゆる奥三河山岳地帯となり、県内最高点の茶臼山（1,415m）となっている。東部も静岡県に接して弓張山脈が続いている。このように北と東に山を負い、西と南に低くなった地形は年平均気温の分布に現れており、知多、渥美の両半島及び三河湾奥に沿った地域が最も暖かく、東北隅の山岳地帯が最低となっている。

ただ、豊川に沿った地域では等温線が上流に向けて深く入りこんでいて、温暖な地域が上流に延びている。蘚苔類の分布を支配するもう一つの条件は湿度であるが、県内における年間の降水量の分布は、濃尾平野の東部から西三河の西半にかけて広がった丘陵地帯が最も乾燥していておよそ 1,400mm 程度、この地域から周辺に向けて次第に高くなっている。東北方向へは特に高くなり、最奥の茶臼山付近では 2,700mm に達している。

以上のような愛知県内の気象配置は蘚苔類の分布に密接に関係を持っている。冷涼多湿な気象をもつ奥三河地帯は北方系蘚苔類の宝庫であり、温暖多湿の気象をもつ豊川上流地域は鳳来寺山一帯を中心として南方系蘚苔類の宝庫である。この事は温暖多湿な環境を如実に指標する生葉上苔類（カビゴケ、イボケクサリゴケ、ヨウジョウゴケ、ウニバヨウジョウゴケ等）が、鳳来寺山をはじめとする豊川上流一帯に豊富に発見されることによっても知ることが出来る。

なお、蘚苔類の分布には気象条件と並んで地質条件も大きく関与している。殊に顕著な例は石灰岩地域に、いわゆる好石灰岩性の特有な蘚類フロラが出現することで、県内では石巻山一帯、渥美半島の一部、新城市の桜淵、北設楽郡東栄町の一部など石灰岩の露出地域に特有な蘚類フロラが成立している。

以上の他にも土地的条件として蘚苔フロラと関与するものとしては好湿性の湿地群落が挙げられる。その代表はミズゴケ類が主な構成要素となる湿地または湿原群落である。県内には奥三河山岳地帯、鳳来寺一帯の暖帯林、平野部の低地湿地などに、それぞれ特徴あるミズゴケ類の湿地が成立している。

#### 愛知県における絶滅危惧種の概況

前項において愛知県に見られるコケ植物全般について、環境的にどのような分布パターンが見られるかを示したので、ここでは愛知県として、絶滅危惧に選定された種が、どのパターンに多いか考察してみる。

最も多数を占めるのは、茶臼山、段戸山、白鳥山等を含む北設山岳地帯に見られる北方系の蘚類で、ハリミズゴケ、ホソバミズゴケ、イボミズゴケ、ウロコミズゴケ、クロゴケ、ウチワチョウジ

ゴケ、フウリンゴケ、イボタチゴケモドキ、コセイタカスギゴケ、ヒカリゴケ、エゾチョウチンゴケ、フジノマンネングサ、オオミミゴケ、ホンシノブゴケ、タチハイゴケ、シノブヒバゴケ、イワダレゴケ等がその例である。愛知県蘚苔フロラの中で、北設山岳地帯が如何に重要であるかが窺える。

次いで多いのが、鳳来寺山を含む豊川上流地域に見られる南方系のもので、ホソベリミズゴケ、クマノチョウジゴケ、コバノイクビゴケ、クマノゴケ、イサワゴケ、タチチョウチンゴケ、カワブチゴケ、ヒメハゴロモゴケ、トサヒラゴケ、イバラゴケ、ヤクシマツガゴケ、コキジノオゴケ（以上蘚類）、カビゴケ、ヨウジョウゴケ、オオシタバケビラゴケ、シフネルゴケ等（以上苔類）がこれに属する。

また、豊田市の王滝溪谷には、ホソオカムラゴケ、イトゴケなど、湿度の高い溪谷の樹上に生育する蘚類が見られる。

その他に、絶滅危惧種として注目されるのは石灰岩地域に出現するもので、マルバホウオウゴケ、サンカクキヌシツポゴケ、セイナンヒラゴケ、キブリハネゴケ（以上蘚類）がその例である。

その他、人里近い所の樹皮に着生するもので稀品に属するものとしては、キサゴゴケ、キブネゴケ、イトヒバゴケ、オオミツヤゴケ等、同じく人里近くの沼、ため池、水田等で見られる苔類のウキゴケ、イチョウウキゴケ等が挙げられる。

なお、「レッドデータブックあいち 2001 植物編」掲載種のうち、今回の見直しによってリストから除外された種とその理由は以下のとおりである。

#### 除外種(蘚類)

No.	科名	和名	見直し前 県ランク	除外理由
1	シツボゴケ	マユハケゴケ	VU	評価対象外とした(新種のイクタマユハケゴケとされた)

#### 除外種(苔類)

No.	科名	和名	見直し前 県ランク	除外理由
1	ヒシャクゴケ	オカムラヒシャクゴケ	EX	評価対象外とした(コアミメヒシャクゴケの異名とされた)

## 愛知県コケ植物(蘚類)レッドリスト

科の範囲、名称、配列は「日本の野生植物 コケ」(平凡社,2001)に準拠した。科内の配列については、学名のアルファベット順とした。

### 絶滅(EX)

(該当種なし)

### 絶滅危惧 A類(CR)

No.	科名	和名	学名	国ランク
1	クロゴケ	クロゴケ	<i>Andreaea rupestris</i> Hedw. var. <i>fauriei</i> (Besch.) Takaki	
2	キセルゴケ	ウチワショウジゴケ	<i>Buxbaumia aphylla</i> Hedw.	
3	キセルゴケ	リュウキュウイクビゴケ	<i>Diphyscium mucronifolium</i> Mitt. (Syn. <i>D. involutum</i> Mitt.)	
4	キセルゴケ	スズキイクビゴケ	<i>Diphyscium suzukii</i> Z.Iwats.	CR+EN
5	ホウオウゴケ	マルバホウオウゴケ	<i>Fissidens diversifolius</i> Mitt.	
6	キヌシッポゴケ	サンカクキヌシッポゴケ	<i>Seligeria patula</i> (Lindb.) Broth.	
7	シッポゴケ	イボマツバゴケ	<i>Leucoloma okamurae</i> Broth.	
8	カタシロゴケ	イサワゴケ	<i>Syrrhopodon tosaensis</i> Cardot	VU
9	ヒカリゴケ	ヒカリゴケ	<i>Schistostega pennata</i> (Hedw.) F.Weber et Mohr	NT
10	チョウチンゴケ	タチチョウチンゴケ	<i>Orthomnion dilatatum</i> (Mitt.) P.C.Chen	CR+EN
11	カワゴケ	クロカワゴケ(シミズゴケ)	<i>Fontinalis antipyretica</i> Hedw.	VU
12	ハイヒモゴケ	イトゴケ	<i>Neodicradiella pendula</i> (Sull.) W.R.Buck	
13	ツヤゴケ	オオミツヤゴケ (サクライゴケ)	<i>Entodon conchophyllus</i> Cardot	VU

### 絶滅危惧 B類(EN)

No.	科名	和名	学名	国ランク
1	ミズゴケ	ホソバミズゴケ	<i>Sphagnum girgensohnii</i> Russ.	
2	ミズゴケ	ウロコミズゴケ	<i>Sphagnum squarrosum</i> Crome	
3	キセルゴケ	コバノイクビゴケ	<i>Diphyscium perminutum</i> Takaki	CR+EN
4	スギゴケ	イボタチゴケモドキ (ハグルマゴケ)	<i>Oligotrichum aligerum</i> Mitt.	
5	キンシゴケ	アオゴケ	<i>Saelania glaucescens</i> (Hedw.) Broth.	
6	チョウチンゴケ	ナミガタチョウチンゴケ	<i>Plagiomnium confertidens</i> (Lindb. et Arn.) T.Kop.	
7	チョウチンゴケ	エゾチョウチンゴケ	<i>Trachycystis flagellaris</i> (Sull. et Lesq.) Lindb.	
8	タチヒダゴケ	キサゴゴケ	<i>Hypnodontopsis apiculata</i> Z.Iwats. et Nog.	CR+EN
9	タチヒダゴケ	ホソミノゴケ	<i>Macrocoma tenue</i> (Hook. et Grev.) Vitt subsp. <i>sullivantii</i> (Müll.Hal.) Vitt	
10	タチヒダゴケ	キブネゴケ	<i>Rachithecium nipponicum</i> (Toyama) Wijk et Margad.	CR+EN
11	フジノマンネングサ	フジノマンネングサ	<i>Pleuroziopsis ruthenica</i> (Weinm.) Kindb.	
12	ヒムロゴケ	オオミミゴケ	<i>Meteoriella soluta</i> (Mitt.) S.Okam.	
13	ヒラゴケ	シタゴケ	<i>Bissetia lingulata</i> (Mitt.) Broth.	
14	ヒラゴケ	ヒメハゴロモゴケ	<i>Homaliodendron exiguum</i> (Bosch et Sande Lac.) M.Fleisch.	NT
15	ヒラゴケ	トサヒラゴケ	<i>Neckeropsis obtusata</i> (Mont.) M.Fleisch.	NT
16	ウスグロゴケ	ホソオカムラゴケ	<i>Okamuraea brachydictyon</i> (Cardot) Nog.	
17	シノブゴケ	ホンシノブゴケ	<i>Bryonoguchia molkenboeri</i> (Sande Lac.) Z.Iwats. et Inoue	
18	シノブゴケ	マルバミヤベゴケ	<i>Miyabea rotundifolia</i> Cardot	

### 絶滅危惧 類(VU)

No.	科名	和名	学名	国ランク
1	ミズゴケ	ハリミズゴケ	<i>Sphagnum cuspidatum</i> Ehrh. ex Hoffm.	
2	ミズゴケ	ホソベリミズゴケ	<i>Sphagnum junghuhnianum</i> Dozy et Molk.	DD
3	キセルゴケ	クマノショウジゴケ	<i>Buxbaumia minakatae</i> S.Okam.	
4	キセルゴケ	クマノゴケ	<i>Diphyscium lorifolium</i> (Cardot) Magonbo (Syn. <i>Theriotia lorifolia</i> Cardot)	NT
5	スギゴケ	フウリンゴケ	<i>Bartramiopsis lescurii</i> (James) Kindb.	
6	シッポゴケ	ヘリトリシッポゴケ	<i>Dicranodontium uncinatum</i> (Harv.) A.Jaeger (Syn. <i>D. fleischerianum</i> W.Schultze-Motel)	
7	ギボウシゴケ	ヤマトハクショウゴケ	<i>Campylostelium brachycarpum</i> (Nog.) Z.Iwats., Tateishi et Tad.Suzuki	VU
8	ホゴケ	シバゴケ(ホゴケ)	<i>Racopilum cuspidigerum</i> (Schwägr.) Ångstr. (Syn. <i>R. aristatum</i> Mitt.)	
9	イトヒバゴケ	イトヒバゴケ (クワノイトヒバゴケ)	<i>Cryphaea obovatocarpa</i> S.Okam.	CR+EN
10	イトヒバゴケ	カワブチゴケ	<i>Cyrtodontopsis leveillei</i> (Thér.) P.Rao et Enroth (Syn. <i>C. obtusifolia</i> (Nog.) Nog.)	NT

11	ムジナゴケ	マツムラゴケ	<i>Duthiella speciosissima</i> Broth. ex Card.	
12	ヒラゴケ	セイナンヒラゴケ	<i>Neckeropsis calcicola</i> Nog.	
13	ヒラゴケ	キブリハネゴケ	<i>Pinnatella makinoi</i> (Broth.) Broth.	NT
14	アブラゴケ	イバラゴケ (ケムシゴケ)	<i>Calyptrochaeta japonica</i> (Cardot et Thér.) Z.Iwats. et Nog.	
15	アブラゴケ	ヤクシマツガゴケ	<i>Distichophyllum collenchymatosum</i> Cardot	
16	クジャクゴケ	コキジノオゴケ	<i>Cyathophorum hookerianum</i> (Griff.) Mitt. (Syn. <i>Cyathophorella hookeriana</i> (Griff.) M.Fleisch.)	NT
17	アオギヌゴケ	キンモウヤノネゴケ	<i>Bryhnia trichomitria</i> Dixon et Thér.	
18	イワダレゴケ	シノビハゴケ	<i>Hylocomiastrum himalayanum</i> (Mitt.) Broth.	

準絶滅危惧 (NT)

No.	科名	和名	学名	国ランク
1	ミズゴケ	オオミズゴケ	<i>Sphagnum palustre</i> L.	NT
2	ミズゴケ	イボミズゴケ	<i>Sphagnum papillosum</i> Lindb.	
3	スギゴケ	コセイタカスギゴケ	<i>Pogonatum contortum</i> (Brid.) Lesq.	
4	イワダレゴケ	イワダレゴケ	<i>Hylocomium splendens</i> (Hedw.) Bruch et Schimp.	
5	イワダレゴケ	タチハイゴケ	<i>Pleurozium schreberi</i> (Brid.) Mitt.	

愛知県コケ植物 ( 蘚類 ) レッドリストの変更点

本書に掲載したコケ植物 ( 蘚類 ) レッドリスト ( 見直し後 ) と「レッドデータブックあいち 2001 植物編」に掲載したコケ植物 ( 蘚類 ) レッドリスト ( 見直し前 ) の新旧対照表を以下に示した。

見直し後のランク	見直し前のランク					未評価 *1	種数
	EX	CR	EN	VU	NT		
EX							0
CR		クロゴケ ウチリチョウシゴケ リュウキュウイクヒゴケ イボマツバゴケ ヒカリゴケ タチチョウチンゴケ	オオミツヤゴケ(サクライゴケ)	クロカワゴケ(シミズゴケ)		スズキイクヒゴケ マルバハクオウゴケ サンカクキヌシツボゴケ イサワゴケ イトゴケ	13
EN		コバノイクヒゴケ イボタチゴケモドキ(ハグルマコ) アオゴケ キブネゴケ	ホソバミズゴケ ウロコミズゴケ ナミガタチョウチンゴケ エソチョウチンゴケ キサゴケ フジノマンネングサ ヒメハゴロモゴケ トサビラゴケ		ホソミノゴケ オオミズゴケ シタゴケ ホソシノブゴケ マルバミヤベゴケ	ホソオカムラゴケ	18
VU		クマノチョウジゴケ	クマノゴケ キブリハネゴケ	フウリンゴケ ヤマトハクチョウゴケ イバラゴケ(ケムシゴケ) ヤクシマツガゴケ	ハリミズゴケ ホソベリミズゴケ ヘトリシツボゴケ シバゴケ(ホゴケ) イトヒバゴケ(クワノイトヒバゴケ) カワフチゴケ マツムラゴケ セイナンヒラゴケ コキジノオゴケ キンモウヤノネゴケ シノビハゴケ		18
NT					オオミズゴケ イボミズゴケ コセイタカスギゴケ イワダレゴケ タチハイゴケ		5
ランク外 *2							0
評価外 *3				マユハケゴケ			1
種数	0	11	11	6	21	6	55

\*1 「未評価」:「レッドデータブックあいち2001植物編」において評価対象とされなかった種。

\*2 「ランク外」:「レッドデータブックあいち2001植物編」掲載種のうち、今回の見直しによって、EX、CR、EN、VU、NTのいずれのランクにも該当しないと評価された種。

\*3 「評価外」:「レッドデータブックあいち2001植物編」掲載種のうち、分類学的な知見の進歩等により、今回の見直しにおいて評価の対象外とされた種。

## 愛知県コケ植物（苔類）レッドリスト

科の範囲、名称、配列は「日本の野生植物 コケ」（平凡社,2001）に準拠した。科内の配列については、学名のアルファベット順とした。

### 絶滅 (EX)

No.	科名	和名	学名	国ランク
1	クサリゴケ	イボケクサリゴケ	<i>Cololejeunea denticulata</i> (Horik.) S.Hatt.	
2	ヤスデゴケ	サカワヤスデゴケ	<i>Frullania sackawana</i> Steph.	CR+EN
3	タカサゴソコマメゴケ	タカサゴソコマメゴケ	<i>Jackiella javanica</i> Schiffn.	

### 絶滅危惧 A類 (CR)

No.	科名	和名	学名	国ランク
1	クサリゴケ	キタガワシロクサリゴケ	<i>Leucolejeunea paroica</i> N.Kitag.	

### 絶滅危惧 B類 (EN)

No.	科名	和名	学名	国ランク
1	ウロコゴケ	マルバソコマメゴケ	<i>Heteroscyphus tener</i> (Steph.) Schiffn.	
2	クサリゴケ	ナカジマヒメクサリゴケ	<i>Cololejeunea nakajimae</i> S.Hatt.	
3	クサリゴケ	ウニバヨウジョウゴケ	<i>Cololejeunea spinosa</i> (Horik.) Pande et Misra	
4	クサリゴケ	ヨウジョウゴケ	<i>Cololejeunea trichomanis</i> (Gottsche) Steph.	NT

### 絶滅危惧 類 (VU)

No.	科名	和名	学名	国ランク
1	クサリゴケ	マルバヒメクサリゴケ	<i>Cololejeunea minutissima</i> (Sm.) Schiffn.	
2	クサリゴケ	カビゴケ	<i>Leptolejeunea elliptica</i> (Lehm.et Lindenb.) Schiffn.	NT
3	ケビラゴケ	オオシタバケビラゴケ	<i>Radula cavifolia</i> Hampe ex Gottsche, Lindenb. et Nees	
4	ヤバネゴケ	シフネルゴケ	<i>Schiffneria hyalina</i> Steph.	
5	ウキゴケ	ウキゴケ	<i>Riccia fluitans</i> L.	NT

### 準絶滅危惧 (NT)

No.	科名	和名	学名	国ランク
1	ウキゴケ	イチョウウキゴケ	<i>Ricciocarpos natans</i> (L.) Corda	NT

## 愛知県コケ植物（苔類）レッドリストの変更点

本書に掲載したコケ植物（苔類）レッドリスト（見直し後）と「レッドデータブックあいち 2001 植物編」に掲載したコケ植物（苔類）レッドリスト（見直し前）の新旧対照表を以下に示した。

	見直し前のランク						種数	
	EX	CR	EN	VU	NT	未評価*1		
見直し後のランク	EX	イボケクサリゴケ サカワヤスデゴケ					タカサゴソコマメゴケ	3
	CR		キタガワシロクサリゴケ					1
	EN			マルバソコマメゴケ ヨウジョウゴケ ナカジマヒメクサリゴケ ウニバヨウジョウゴケ				4
	VU			カビゴケ シフネルゴケ ウキゴケ	マルバヒメクサリゴケ オオシタバケビラゴケ			5
	NT			イチョウウキゴケ				1
	ランク外							0
評価外		オカムラヒシヤクゴケ						1
種数	3	1	8	2	0	1	15	

\*1「未評価」:「レッドデータブックあいち2001植物編」において評価対象とされなかった種。

\*2「ランク外」:「レッドデータブックあいち2001植物編」掲載種のうち、今回の見直しによって、EX、CR、EN、VU、NTのいずれのランクにも該当しないと評価された種。

\*3「評価外」:「レッドデータブックあいち2001植物編」掲載種のうち、分類学的な知見の進歩等により、今回の見直しにおいて評価の対象外とされた種。

